

ほっかいどう

私学振興

だより

No 31

2025年(令和7年)3月

北海道私立中学高等学校協会

目 次

● 挨拶	1
● 私学振興に関する懇話会 全道大会	2
● 私学振興全国大会	10
● 道・道議会・国への要望活動	12
● 定例総会・理事会・各部会の活動	15
● 支部の声	24
● 理事長・理事・校長研修会	31
● テーマ別研修会	32
● 私立高等学校周年行事記念式典等	34
● 北海道社会貢献賞(私学教育功績者)	35
● 北海道私立中学高等学校保護者会連合会	36
● 北海道私立高等学校事務長会	38
● 北海道私学団体連合会	38
● 道教委情報ボックス	39
● 道学事課からのお知らせ	40
● 私学情報の発信	42
● 私学関係団体からのお知らせ	44
● 令和6年度・令和7年度の動き	46



将来を担う人材の育成

北海道私立中学高等学校協会
会長 西岡 憲廣

平素から私学教育の振興・発展に多大なご理解、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

コロナ禍が落ち着き、北海道でも国内外から多くの方々が訪れ、観光地を中心に活気を取り戻しています。私の住んでいる札幌市内でも大きなキャリーケースを持った家族連れの訪日客を多く見かけるようになりました。

一方で円安の影響やエネルギー・原材料・食材価格の高騰、賃上げによる人件費の上昇などが続いており、加えて近年の猛暑による熱中症対策等として、教室など学校施設への空調・換気設備等の整備のほか、国が進めるICT環境の整備等に要する経費が増大するなど私学の経営に大きな影響を及ぼしています。

公教育の一躍を担う私立学校は、建学の精神のもと、それぞれの学校が特色ある教育を実践するとともに、私学の自主性や独自性を発揮して、時代の変化が加速する中であっても柔軟に対応し、日本の学校教育に貢献してきました。

さて、我が国は、少子高齢化がさらに進行し、高齢者の割合が増えて生産年齢人口が減少すると見込まれており、また、グローバル化や情報化など社会的変化が予想を大きく上回るスピードで進展する中、その変化に柔軟に対応し、新しい時代の要請に応えられる資質や能力を確実に身につけた人材の育成が求められています。

当協会としては、私立学校がその時代の変化に迅速かつ的確に反応し、将来を担う子供たちに対して私学ならではの特色を活かした教育活動を展開し、時代に即した人材の育成に努めていくことが重要と考えます。

そのためには、私学助成の改善などにより私学経営の安定を図ることが何よりも大切であることから、当協会では私学経営の健全化、公私間格差の是正、保護者負担の軽減、教員の資質向上などを図るため、「私学予算の充実と公私間の納付金負担格差の是正」「中卒者の減少に伴う公立高校の定員調整」「魅力ある学校づくりに向けた研修の充実」を重点項目として位置づけ、様々な事業や要望活動に取り組んで参りました。

また、本年1月15日には、北海道私学団体連合会加盟10団体の役員、加盟校の代表者や保護者などの方々が一堂に会して「私学振興に関する懇話会全道大会」を開催し、多くの私学関係者の皆様と私学教育の充実・発展と経営の安定などに取り組む決意をしたところです。

当協会といたしましては、引き続き、私学の使命と私学教育の充実向上に向けて結束するとともに、公教育の将来に向かって着実に前進して参りますので、今後とも皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

私学振興に関する懇話会 全道大会



北海道私学団体連合会（西岡憲廣議長）主催の「令和6年度私学振興に関する懇話会全道大会」が、令和7年1月15日（水）札幌ガーデンパレスにおいて開催された。

この懇話会は、北海道私学団体連合会加盟10団体の役員をはじめ教職員や保護者などが一堂に会し、教育水準の充実向上と経営の安定に取り組む決意を新たにするとともに、私学教育に理解を示し、本道の私学振興に積極的に取り組んでいただいている国会議員、知事、道議会議員・議員の皆様をご来賓としてお招きし、私学への公的助成や支援施策の充実に一層のご理解とご協力を求めるために開催している。今年度は全道から333名の参加となった。

当日は、高橋はるみ参議院議員、岩本剛人参議院議員、船橋利実参議院議員、鈴木直道北海道知事、富原亮北海道議会議長、田中芳憲北海道議会教育振興議員連盟会長から、私学の支援に対する力強い応援のご挨拶をいただくとともに、北海道議会教育振興議員連盟役員の皆様に応援に駆けつけていただいた。

主催者及び来賓のご挨拶は次のとおり。

【主催者代表 西岡憲廣議長】

皆様にはお気持ちも新たに新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、本日は

年初めの何かとお忙しい中、全道各地から多くの皆様にご参加いただきまして、全道大会が盛大に開催できますことを大変うれしく思っております。

本日の懇談会にはご来賓として国会議員の皆様、高橋はるみ様、岩本剛人様、船橋利実様にお出でいただいております。また、鈴木北海道知事、富原北海道道議会議長をはじめ、道議会の皆様にご出席をいただいております。誠にありがとうございます。

ご来賓の皆様には、日頃から私学に対する公的助成や教育費負担の公私間格差の縮小・是正など、多くの私学支援対策に取り組んでいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

さて、本道の私学は、それぞれの建学精神のもとに、時代の進展と社会の要請に応じて、多様で特色ある教育を展開し、わが国の発展に大きく寄与してきたものと考えております。

一方で、私学を取り巻く環境は、少子化や人口減少に加え、物価高騰が続く中、デジタル化の推進や各種施設等の整備のほか、質の高い教員確保のための処遇改善などの課題



私学振興に関する懇話会 全道大会

に対応するため、これまで以上に厳しい状況にあります。公教育の一翼を担う私学人といましては、このような困難な課題に立ち向かいながら、北海道、そして日本の将来を担う子どもたちをしっかりと支え育てていくという使命を担っていかねばなりません。

ご来賓の皆様におかれましては、保護者への助成制度の拡充や、経常費助成制度等の充実、耐震化や冷房などの施設設備への支援の拡充等を通じて、我々私学関係者が安定した経営基盤のもと、個性豊かで特色のある教育を行えるよう、さらなるお力添えをお願いする次第であります。

本日ご参集いただきました関係者の皆様には、私学教育の充実・向上に向けて一層の結束をお願いいたしますとともに、新時代に立ち向かう強い気概をもって、未来に進んでいただきたいと思っております。

終わりに、本年が皆様にとりまして実り多い一年となりますことを心より祈念を申し上げ、開会にあたっての挨拶といたします。本日は誠にありがとうございます。

【鈴木直道 北海道知事】

皆さん、明けましておめでとうございます。私学振興に関する懇話会全道大会、盛大に開催されますことを心からお慶びを申し上げます。

西岡議長をはじめとして本日お集まりの皆様には、それぞれの建学の精神のもと、時代の変化に柔軟に対応しながら、北海道を担う人材の育成に努められ、本道の教育の充実に多大なるご尽力をいただいておりますことを、心より感謝申し上げます。いつも大変ありがとうございます。



昨年を振り返りますと、能登半島地震をはじめとして各地での災害が相次ぎましたとともに、物価高騰の影響が長期化するなど、道民の皆様への命と暮らしを守る、そういう思いを一層強くした一年でございました。

道といたしましては、市町村などとの連携による防災訓練、今年で言いますと1月29日に初めてになりますけれども、厳冬期の中での避難所運営訓練を、札幌市と連携をして取り組むこととなっておりますが、そういった防災訓練など地域防災力の強化に努めていきたいと考えています。

また、物価高につきましては、影響を受けております私立学校や医療機関等に対する支援を含みます物価高緊急経済対策、これを取りまとめたところでございます。その必要な予算案につきましては、明日開催されます道議会臨時会に提案するところでございます。道議会にご議論いただいて、そして厳しい状況にある皆様に対して、一日も早く必要な支援をお届けできるように、まずはしっかり取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、この点につきましても、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、昨年は北海道の新たな総合計画がスタートした、そういった年でもございました。策定にあたりましては、総合計画として初めて子どもたちから意見を募集させていただいて、自分の暮らす地域や北海道の将来に対する思いを、子どもたちから多数いただいたところでございます。

さらに、いま、「こどもまんなか」の考えのもとで、子ども施策を総合的に推進するための新たな条例、計画、この検討を進めているところであります。その中でも、子どもたちの意見を反映しているところであります。私としては、本道の未来に向けた取り組みを、若い世代から多くの共感を得ながら進めていきたいというふうに考えております。

これまで、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、その可能性を引き出してこられた私立学校の皆様には、ますます大きな期待が寄せられているところでございます。

私学振興に関する懇話会 全道大会

道としても、子どもや若者の健やかな成長を後押しする、そういう社会づくりにしっかり本年も取り組んでいきたいと考えていますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、本道の私学のさらなる発展を皆様と願いますとともに、本年が皆様にとって明るい希望に満ちた年となることを心からご祈念申し上げて、ご挨拶に代えさせていただきますと思います。皆様、本年もよろしくお願い申し上げます。

【高橋はるみ 参議院議員】

皆様、ちょっと遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。参議院議員、高橋はるみでございます。私学の皆様方の懇話会、久方ぶりに参加をさせていただいたような気がいたします。



いま、颯爽とご挨拶をされ、颯爽と去っていかれました現鈴木知事の前任として、この会は、1月この時期、私学の関係の皆様方と懇談をする場として、毎年楽しみにしていたところでございます。

それぞれの私学の先生方におかれましては、それぞれの建学精神に基づき、公教育の一端を担っていただいておりますこと、そして、北海道の子どもたちの明日に向かっての活力を生み出していただいておりますこと、道民の一人として、心から感謝を申し上げます。

知事時代は、全道の私学の大学の方々、高校の方々、あるいは小中学校、あるいは幼稚園、いろんなところにお邪魔させていただいて、対話を重視していたところでございます。いま鈴木さんが、それを皆様方とやらせていただいているところでございますが、国会のほうにまいりましてからは、文科省の政務官というのをもう

2、3年前ですか、やらせていただきました。ちょうど私学のガバナンス改革ということをやると、そういうタイミングでの政務官でございました。ご記憶にあるでしょうか、日本大学というところで、やや問題のあることがあった。

そういったことも契機だったかなと思うわけですが、行き過ぎたガバナンス改革というのは、やはり、私学の皆様方がそれぞれ持っておられる多様な教育のあり方に、悪い影響を与えるのではないかとというような議論も省内でさまざまさせていただき、いまのようなかたちのガバナンス改革になった、このように記憶をするところでございます。

昨日まで暖かくて、今日はちょっと寒い、雪も降っておりますけれども、道内の各私学の学校の皆様方におかれまして、例えばスポーツ分野に重点をおかれるなど、いろんなかたちで少子化、あるいは人口減少時代における多様な私学の発展、子どもたちのための活動に創意工夫を凝らしておられること、大変ありがたく思う次第であります。

今日は道議会の先生方もいっぱいおられます。道庁、道議会とも連携をしながら、我々国会議員も国政の場で、北海道の子どもたちのために何が必要なのかということを考え、そして、今日お集まりの私学関係の先生方と力をあわせて、しっかりと活動をレベルアップしていきたいと、このように思う次第であります。今日のご盛会、誠にありがとうございます。ありがとうございました。

【岩本剛人 参議院議員】

皆さん、明けましておめでとうございます。ご紹介を賜りました参議院議員の岩本剛人でございます。本日は、令和6年度の私学振興に関する懇話会



私学振興に関する懇話会 全道大会

全道大会ご盛会、おめでとうございます。心からお祝いを申し上げたいと思います。また、自分にもこういう機会を与えていただいたことに、心から重ねてお礼を申し上げたいと思います。

いま、高橋はるみさんからお話がありました。本道の子どもたちのために、先生方にはご尽力を賜っておりますこと、心からの敬意を申し上げたいというふうに思っております。

一昨日、成人式がありました。私も地元の成人式に出ておまして、今回成人を迎えた子どもたちはコロナの時代の子どもたちでありまして、拝見しておりましたら感慨深いと言いますか、なんとも言えない思いがありました。そうした中で、本当に厳しい環境の中で、先生方が子どもたちのためにご尽力いただいたことには、本当に重ねてお礼を申し上げたいというふうに思います。

先ほど、鈴木知事からお話がありました。明日、道議会、富原議長からお話があるかと思えますけれども、とりあえず国のほうでも補正予算をつけまして、物価高騰対策ということで、都道府県、市町村に対して予算が配分されたところでもあります。そうした中での臨時の道議会が開かれるということで、本当に皆さんのことを考えての対応だというふうに思っているところであります。

自分も札幌で小さな幼稚園を経営しております。ご案内のとおり、これからは少子化対策を本当に真剣に、我々も考えていかなければならないと思います。先ほど西岡議長からも、経営をしっかりとというお話がございました。間違いなく子どもたちの数は減っていきます。いま510万人を切っています。おそらく500万人を切ってくる人口の中で、本当に我々はどういうふうに、子どもたちのために私学振興を含めて、建学の精神というお話がありましたけれども、どう取り組んでいかなければならないのか、しっかり真剣に議論する時期にきたというふうに思います。

そういう意味におきましては、いま、小樽の地域の出身の中村衆議院議員が、衆議院の文部科学委員会の委員長です。オホーツクの衆議院議員の武部新議員が文部科学副大臣であります。新年度に向けて、皆さんの思いをしっかりと取り組んでいただける国会議員が2人、

文部科学省にいるということでもありますので、そうした中では、大変厳しい状況が続きますけれども、先生方からご指導いただきながら、北海道の子どもたちのためにどういう取組をしていかなければならないか、我々も一生懸命、努力をさせていただきたいというふうに思いますし、また、今後とも子どもたちのために、皆様方のご尽力を賜りますことを心から願ひまして、お祝いの挨拶と、また懇話会のお礼の挨拶に代えさせていただきますたいと思います。本年度もどうぞ、ご指導よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

【船橋利実 参議院議員】

ご紹介賜りました参議院議員・船橋利実でございます。まずは、私学振興に関する懇話会全道大会、全道各地から皆様方、こうして一堂に会されて、今年も盛大に開催されますこと



を心からお慶びを申し上げる次第でございます。また、道内も札幌は穏やかな新年の幕開けでございましたが、地域によっては豪雪に見舞われておられる地域もあるというふうに聞いてございますけれども、ご出席の皆様方にはお健やかに輝かしい新年をお迎えのこととお慶びを申し上げる次第であります。

いま、高橋参議、岩本参議のほうから縷々お話をいただいた次第ですけれども、コロナのときに何が変わったか。いわゆる授業を非対面で行わなければならない。そこにかなり規制緩和というものも含まれてスタートいたしました。今またインフルエンザとコロナがかなり流行している様相がございますけれども、いわゆるDXの推進という中で、Webによる授業というものがある意味当たり前になってきている。その結果、私学の教育の中にもいろんな影響が及んでいるの

私学振興に関する懇話会 全道大会

ではないかというふうに、私自身は受け止めているところでもあります。

本来、デジタルの力というのは、その地域の中でいかに有効に使っていくのかということが、私は求められているのだと思っておりますけれども、最近のテレビのコマーシャルを見ている、東京のほうのとある通信制の大学が募集をかけている広告を見ているときに、そういった需要もあるということも事実かというふうに思っておりますけれども、本来の教育の質、これを保つためには本当にこうした、単なる通信だけの教育だけで事が足りるのかということに、私自身は疑問を感じている者の一人であります。

実は私、去年の秋から自民党のデジタル推進本部で、データ戦略を担当させていただいております。その中には当然のことながら教育分野のデータ、これは膨大な量のものが出てまいります。教育におけるデータとはそもそも何か。幼児教育から始まって小中高校、専門学校、大学、どこにどんなデータがあって、それをどう有効に使っていくことが、子どもたちにとって、あるいは社会にとって必要な教育を高めていくということにつながっていくのかということ、これから議論をしていくことになるわけですが、どうやらヨーロッパのほうは先行して進んできておりまして、身近なところで申し上げさせていただきますと、何が起きているかという、東京大学を卒業した学生がイギリスの大学に留学しようと思って、東大の総長のハンコを押した卒業証明書をイギリスの大学に提出をした。そうすると、イギリスの大学は「これは何だ」と。このウェットスタンプを押している証明書は、いったい本物かといういちゃもんをつけられた、というお話がございました。要は、ヨーロッパの国々ではすでに、こうした証明書も電子化されている。しかも、電子化されている書類そのものが、信憑性があるかないかということについて証明をする機関も存在しているということのようだそうでございます。したがって、この学生さんはどうしたかという、東大総長のハンコが押してある卒業証明書をイギリスの専門機関に送って、そこで電子化をして、証明をしてもらって、大学に届け出をしたということが起きているというお話

を先般お聞きいたしました。世の中が変わっていくことの一例かというふうに思っておりますけれども、そのことが本当に教育の質を高めていることかどうかということは、また、私は別の話ではないかというふうに思っております。

先生方からお寄せいただいております課題については、一つひとつ解決をするために、国政の場で、あるいは今日、道議会の先生がお出ででございますけれども、道議会の場で私どもは真摯に取り組んでいくことをお約束させていただきたいと思っておりますし、時代の変化の中で、私学教育はこうあるべきということ、ぜひこうした機会に先生方がおおいに議論していただいて、そのご提言なども私どもにお寄せいただければありがたいと思う次第でございます。今日お集まりの先生方の今年一年間のご活躍、そして各校のご発展、心からご祈念をさせていただきます、新年のご挨拶といたします。本年もよろしくお願いいたします。

【富原亮 北海道議会議長】

ご紹介をいただきました北海道議会の富原でございます。新年明けましておめでとうございます。令和6年度私学振興に関する懇話会全道大会の開催にあたりまして、今日は多くの同僚議員



共々お招きをいただきまして、ありがとうございます。北海道議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は全道各地から多くの皆様がお出席されて、この大会が盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。

西岡議長はじめ、お集まりの皆様におかれましては、いまほどお話があったところでございますけれども、日頃からそれぞれのお立場で、また地域で私学教育を通じ本道教育の発展・

私学振興に関する懇話会 全道大会

向上に多大なるご尽力をいただいておりますことに感謝申し上げますとともに、心から敬意を表します。

昨年10月のことでありますけれども、函館市で開催されました北海道私立中学・高等学校協会「令和6年度理事長・校長研修会」にもご案内を賜りまして、出席をさせていただきました。その際にもご挨拶をさせていただいているところでありますけれども、本道の私学教育は、これまでも建学の精神と独自の教育理念のもとで、特色ある教育活動を展開され、きめ細やかな教育を提供することで、我が国の将来を担う若者を数多く輩出するなど、教育の発展に多大な貢献をされてこられました。

しかしながら、北海道では全国を上回るスピードで少子高齢化、人口減少が進んでおります。生徒数の急激な減少、物価高騰の長期化、AIの教育活用など、地域と学校を取り巻く環境はますます複雑化、多様化しております。

このような中で、本道が将来にわたり活力ある地域として発展していくためには、子どもたちが自らの可能性を發揮し、未来を切り開いていく力を身につけることが、これからの学校教育によりいっそう求められておりまして、私学ならではの魅力ある教育を提供していくためには、皆様のお力が不可欠であります。

私ども北海道議会といたしましても、私学が引き続き大きな役割を担っていくためには、経営の安定性、健全性を高めることが何より重要であると考えておりまして、これまでも国に対する意見書の提出や、全国都道府県議会議長会としても、大変重要な要望項目の一つとして、今日ご出席の国会議員の先生方はじめ、本道選出の国会議員の先生方のお力を借りながら、国への要請を続けてきたところではあります。引き続き関係機関の皆様とも緊密に連携を図りながら、本道の私学教育の充実・強化に向けて力を尽くしてまいりますので、また、先ほど来お話がありましたとおり、昨年末に国会議員の先生方のご尽力、ご努力のもとで、物価高騰経済対策の補正予算が成立して、それを受けて北海道でも各種施策の対応ということで、予算が取りまとまったということで、明日臨時

議会を開かせていただきまして、速やかに議会としても対応をさせていただきますので、そういった中であって、皆様方におかれましても、一層のご理解、お力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びとなりますが、本日の大会、実り多いものとなりますことをご期待申し上げますとともに、本年がお集まりの皆様にとりまして、よりよい一年となりますよう、心から祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。今年も一年、どうぞよろしくお願い申し上げます。おめでとうございます。

【田中芳憲 教育振興議連会長】

ご紹介をいただきました、北海道議会で作ります教育振興議連の会長を務めます田中と申します。本日は、私学振興に関わる全道大会、盛会に開催されますことを心からお慶びを申し上げます。



ご承知のように私たちの役割は、いわゆる公私間格差を道議会の立場で、また、お金の出所が北海道予算の中から出るわけでございます。政府与党、今日は仲間の議員が大勢集まって、一丸となって各地域の私学振興、また活動費補助金、あるいは単価のアップなど、さまざまなご要望を道側に伝え、それをしっかりとかたちにしたいというのが、我々の目的であります。

先ほど知事が「こどもまんなか」というお話をされました。我々もいつも、おおいに期待しておりますし、今年は公立高の教員の処遇改善で大幅なベースアップも報道されております。そうした中で、私学もいつまでも公私間格差を容認する状況ではありません。幸いなことに、今日は総務部長も、それから総務部の学事課の幹部職員も出席しておりますので、皆様の熱い声をしっかりと受け止めて、今回の北海道予算に

私学振興に関する懇話会 全道大会

反映されることをご期待申し上げるところであります。

もとより、今年は昭和100年でございます。私も昭和の生まれですから、いま、令和7年に育っている子どもたちがこれからの北海道の未来をつくると言っても過言ではありません。そうした中で、中高、あるいは私学幼稚園の協会の皆さんの役割は大変大きいものでありますし、我々も微力ではありますが、道予算の拡充もそうありますが、政府予算の拡充を求めて、昨年は西岡会長はじめ、私学幼稚園協会の近藤会長とともに、中央要請に参った次第であります。なかなか財務省の主計官の考え方は厳しいものがありましたけれども、それを突破するのは政治の力であります。

先ほどお話をいただいた高橋参议院議員をはじめとして、多くのお仲間の力を結集して、いま、皆様方の大きなテーマとなっていることの風穴を一つひとつ開けていきたいというのが願いであります。そうしたことの意味も含めて、この大会が大きな実りある成果を皆様方のお気持ちを受け止めて、大きな実りある成果を得られることを心からご祈念申し上げるところであります。私達も皆様方と同じ仲間として、これからも北海道教育の重要な課題、我々のテーマの一つとして、しっかり取り組んで参りたいと思います。

改めて、大変厳しい経済状況でもあります。物価高騰の折、さまざまな面で、経営という面でご苦労されていることと思いますが、我々も十分に認識しながら、こうした問題を一つひとつクリアしてまいりたいと考えております。

まだ、コロナやインフルエンザも流行っておりますし、こういった面からも、子どもたちの安全な教育環境を守るためにもご苦労が多いと思いますが、どうか皆様方のお力を結集して、北海道の特色ある教育環境をぜひ守っていただきたいと思っております。

本大会のご成功と皆様方のこれからのますますのご健勝をご祈念申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

〔大会決議〕

大会の最後には、私学経営の健全化のための補助金等の大幅な拡充、私立学校の就学支援金制度等の拡充を図ることを柱とする決議案を、浅井洋子公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会副理事長が読み上げ、全会一致で採択され、決議はその場で高橋はるみ参议院議員に手渡された。



私学振興に関する懇話会 全道大会

決 議

本道の私立の幼稚園・認定こども園、小・中・高等学校、専修学校・各種学校、短期大学、大学は、それぞれ建学の精神と独自の教育理念のもと、常に時代の進展と社会の要請に応じて特色ある教育を展開し、将来を担う人材を育成するとともに北海道の発展に多大な貢献をしてまいりました。

近年、人口減少や少子化の進行、グローバル化の進展、デジタル化の推進など教育を取り巻く環境が急速に変化しており、加えて長引くエネルギー価格の上昇をはじめとする物価高騰などにより、私学を取り巻く環境はますます厳しさを増しております。

我が国が持続可能な社会を維持していくためには、新時代を担う子供たちに魅力ある質の高い教育の提供が何よりも大切であり、そのためには、安定した経営基盤のもと私学ならではの特色を生かした教育の充実が大変重要となっております。

本日、私学関係者並びに保護者の総意において、本道の教育の充実・発展に一層努力することをお誓い申し上げますとともに、公教育における公私間のさまざまな格差是正を目指し、その速やかな実現を期して次の事項を決議します。

記

- 一、私学経営の健全化、保護者負担の軽減及び教育諸条件や施設設備の整備のため、所要の補助金等の大幅な拡充を図ること
- 一、公私間における保護者の教育費負担の格差是正のため、私立学校の就学支援金制度等の拡充を図ること
- 一、学校施設等の耐震化の早期完了、冷房設備の整備促進、既存の施設整備の更新、長寿命化のため、所要の補助金等の大幅な拡充を図ること
- 一、私立学校教職員退職金資金給付事業等の補助金の充実を図ること
- 一、原油価格の上昇などによる電気料金等を含む物価高騰に対する支援の充実を図ること

令和7年1月15日

私学振興に関する懇話会全道大会

私学振興全国大会



日本私立中学高等学校連合会(中高連)及び日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会(日私学保連)の主催による「令和6年度私学振興全国大会」が、全国の都道府県から1,659名の私立学校関係者や保護者の参加のもと、11月6日に文京シビックホール「大ホール」で開催された。

大会には日頃から私学の振興・発展にご理解いただいている自由民主党国会議員36名(代理を含む。)の皆様にご出席いただき、私立学校に対する補助金の大幅な拡充や私立学校保護者の教育費負担の軽減等、ICT環境の整備、施設の耐震化・高機能化の実現に向けた補助金の拡充などを要請した。

はじめに、主催者を代表して吉田晋中高連会長と鹿濱徳雄日私学保連会長が挨拶に立った。吉田会長からは、昭和50年7月、自由民主党の議員立法で私立学校振興助成法が制定され、昭和51年4月に施行された。現在の私立学校振興に繋がり今に至っている。井戸を掘っていただいた自由民主党の先生方を中心にこの大会にお招きしている。先生方のおかげで、近年、私立高等学校等経常費助成費等補助は毎年増額されている。本日は大勢の国会議員にご臨席賜り、大会を盛り上げていただき感謝。日本の将来の資産は人である。私立学校が公立学校と共に切磋琢磨しながら日本の教育を支えている。その人を育てる私立学校教育への更なる支援をお願いする旨の挨拶があった。

決 議

私立中学高等学校は、建学の精神の下、特色ある質の高い教育を展開し、我が国の公教育の発展に貢献してきました。

現在、我が国は少子高齢化の急速な進行による人口減少やデジタル化、グローバル化による社会構造の大きな変化に直面しています。

このような変化の激しい状況の中でも、我々私立中学高等学校は、我が国の将来を担う子供たちの資質・能力を育成するための教育基盤の整備のほか、端末をはじめとしたICT環境の整備、今後発生が懸念される大規模地震に備えるための学校施設の耐震化や気温上昇による熱中症対策のための施設の高機能化に努め、より安全・安心な教育環境の実現を図っております。しかしながら、国公立学校がその全額を公費で賄えるのと異なり、私立学校の経費負担は、物価高騰の影響も受け、自助努力の範囲を超えるものとなっています。

また、都道府県によって高等学校等就学支援金の上乗せ額が異なるなど、居住地によって格差が生じていることから、子供たちが居住地にかかわらず自由に学校を選択し、質の高い教育を等しく受けられるよう、国において保護者の教育費負担の軽減を図ることが強く求められています。

つきましては、本日ここに、私立中学高等学校関係者並びに保護者の総意において、私立学校の自主性・独自性の確保と我が国の公教育における公私間や都道府県間の様々な格差是正の実現を期して、下記の事項について決議いたします。

記

- 一、私立中学高等学校の教育の充実発展のため、経常費助成費等補助の大幅な拡充を図ること
- 一、私立中学高等学校の保護者の教育費負担を軽減し、公私間や都道府県間格差を是正するため、国による就学支援金制度等の大幅な拡充を図ること
- 一、私立中学高等学校のICT環境の整備、施設の耐震化・高機能化の実現のための補助の大幅な拡充を図ること

令和6年11月6日

令和6年度私学振興全国大会

私学振興全国大会

続いて鹿濱日私学保連会長からは、年々私学助成の増額が図られているが、私立中学校、高等学校を取り巻く環境は、諸物価高騰に追いつかず、質の高い教育環境の維持が大変厳しい状況にある。また、私立高等学校に通う生徒への就学支援金は、一部の都道府県では独自に上乘せ支援が行われているが、支援内容に大きな格差が生じており、子供たちが自ら学びたい学校で学べる環境をつくる必要がある。更なる充実のためにも令和7年度の私学関係政府予算では、私立学校の経常費助成費等補助金をはじめ就学支援金制度、補助金などの拡充強化について訴えた。

また、中高連の近藤彰郎副会長からは、私立学校は私立学校振興助成法に守られているが、年月が経つとその趣旨、目的が薄れ、私立学校の自主性や独自性が危機に立たされることがある。規制改革等で教育を企業同様に改革するのはいかなるものか。規制改革等というのであれば、全日制の高校の規制を少しでも緩めれば、教育の自由度が増す。私学経営者等は自らの判断で子供たちのためにより良い教育を行うことができる。また、教育の無償化が実現すれば、公立と私立は生徒の確保ではなく、教育の質で競い合えると述べられた。

さらに、静岡県私学保護者会の稲葉真貴さんが、私立中学高等学校の経常費助成費補助金の拡充や就学支援金制度等の大幅な拡充など教育環境の一層の充実と保護者の経済的負担の軽減のための支援を盛り込んだ「保護者の願い」を読み上げ、山谷えり子参議院議員に手渡された。

最後に、日私学保連の秋山政二郎副会長が、「私立中学高等学校の教育の充実発展のため、経常費助成費等補助の大幅な拡充」「私立中学高等学校の保護者の教育費負担を軽減し、公私間や都道府県間格差を是正するため、国による就学支援金制度等の大幅な拡充」「私立中学高等学校のICT環境の整備、施設の耐震化・高機能化の実現のための補助の大幅な拡充」を要望の柱とする決議案を読み上げ、満場一致で採択され、末松信介参議院議員に手渡された。

来賓議員から力強いご挨拶

最初に、あべ俊子文部科学大臣からご挨拶があり、教育は国家・社会の礎であり、発展の原動力である。私立学校では建学の精神の下、多様で特色ある教育活動が行われており、日本の未来を担う子供たちの育成を図っていくことが期待されている。文部科学省においても、私立学校の更なる振興策の推進に取り組んでいくと発言があった。

保護者の願い

私たち保護者は、第一に子供たちが、幅広い学びを通して立派に成長し、将来、社会で活躍することを願っております。

近年、インターネット・AIなど情報技術の進歩やグローバル化が急激に進む中、私立中学高等学校では、それぞれ特色ある先駆的な教育が実践され、そこで学ぶ子供たちは大きな影響を受けながら日々成長しております。しかしながら、私立学校の教育環境の整備に関しては、毎年、私学助成の増額が図られているものの、昨今の諸物価高騰には対応できず、学校負担、保護者負担によるところが大きくなっています。私たち保護者は、子供たちの学びの場がより良い教育環境となることを望み、そのためにも国や都道府県において、私立中学高等学校の経常費助成費補助金が拡充されることを願っております。

また、私立高等学校等就学支援金についても、諸物価高騰に対しての、国による支給額は増額されておりません。このような中、一部の都道府県では独自の上乗せ支援が行われ、保護者への教育費負担の支援が図られておりますが、一方で、居住地によって支援に格差が生じております。こうした格差は正のためには、就学支援金制度等の大幅な拡充が必要不可欠です。

私たち保護者は、私学の「建学の精神」に基づく特色ある教育方針に賛同し、子供たちを学ばせております。家庭の経済状況や居住地によらず、子供たちが自由に学校を選択し、自らが望んだ教育を受けて欲しいというのが、私たち保護者の切なる願いです。

国会議員の先生方におかれましては、私立中学高等学校の教育環境の一層の充実と、保護者の経済的負担の軽減を目指し、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年11月6日

令和6年度私学振興全国大会 保護者代表
静岡県私学保護者会 稲葉 真貴

私学振興全国大会

続いて前内閣総理大臣の岸田文雄衆議院議員からは、私学の特性を活かしながら日本の学校教育を支え、また多くの有為な人材を社会に輩出。自由民主党は結党以来、教育政策の大きな柱の1つとして私学振興を掲げてきた。昨今の物価高騰等を踏まえ、近年最大の上昇幅に拡充することを政府とともに目指していきたい旨の発言があった。

また、私学振興協議会の共同代表である遠藤利明衆議院議員からは、学校の耐震化、学校の体育館の冷暖房、ICT教育では国として2台目の端末も責任を持って整備するため、県に基金を作って取り組む。人への投資のための財源確保をするためにも教育国債をしっかりと考えて進めたいと述べられた。

さらに、元文部科学大臣の柴山昌彦衆議院議員からは、住む場所に関わらず、しっかりと求める学びを得ることは重要。住む場所によらず求める内容の教育が提供できるように国・地方が連携して、皆様方の要望に応じていきたいと発言があった。

そのほか、元文部科学大臣の永岡桂子衆議院議員、元文部科学大臣の末松信介参議院議員、元総務大臣の金子恭之衆議院議員、前総務大臣の松本剛明衆議院議員、元国務大臣の山谷えり子参議院議員、長島昭久衆議院議員、石原宏高衆議院議員、中曽根康隆衆議院議員、勝目 康衆議院議員、上野通子参議院議員、赤池誠章参議院議員、朝日健太郎参議院議員、臼井正一参議院議員からご挨拶があり、1時間を超える大会は幕を閉じた。

大会終了後、道中高協会と北私学保連の参加者は国会議員会館に移動し、道選出国會議員等に対し要請活動を行った。

道・道議会・国への要望活動

「令和6年度私学振興に関する懇話会」については、1月に全道大会を開催しているほか、北海道議会教育振興議員連盟の皆様をはじめ、北海道総務部長、北海道教育委員会教育長とも個別に開催し、私学の現状や課題について意見交換を行うとともに、予算要望等を行っている。

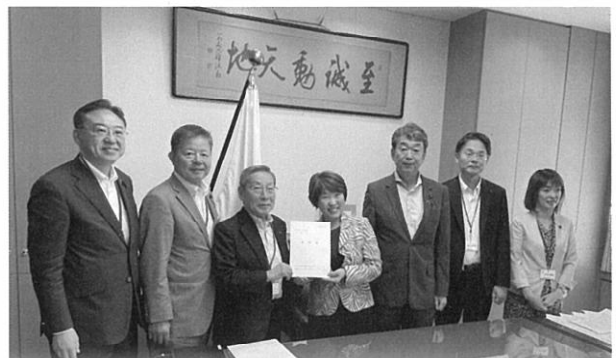
1. 北海道議会教育振興議員連盟との懇話会

北海道議会教育振興議員連盟の皆様との懇話会は、第1回目を概算要求に向けて7月4日に、第2回目を令和7年度の私学振興関係予算要望に向けて12月11日に開催。

私学の現状や課題等について説明するとともに、私学関係予算について要望し意見交換を行った。

2. 令和7年度私立高等学校等関係政府予算に関する要請

少子高齢化・人口減少社会の到来、グローバル化の目覚ましい進展など我が国の社会構造の大きな変化の中、ICT環境の整備や教育のデジタル化による学びの充実、教員の資質の向上・負担軽減などの課題への対応のほか、原油価格の上昇や円安の進行などによる物価高騰により、私学を取り巻く環境はこれまでも増して厳しい状況を踏まえ、令和7年度私立高等学校等関係政府予算について、道議会教育振興議員連盟のお力添えをいただき関係省庁及び国会議員への要請活動を行った。



道・道議会・国への要望活動

【中央要請】令和6年7月23日(火)

・要請内容

私学予算の拡充、私立高等学校等施設の耐震化に対する支援の充実強化、ICT環境の整備促進及び公私間の納付金負担格差の縮小是正と保護者負担軽減施策の拡充

【要望先】

文部科学副大臣	あべ俊子
文部科学省私学部長	浅野敦行
財務省主計局主計官	河本光博
北海道選出国會議員	

【出席者】北海道議会教育振興議員連盟

会長	田中芳憲
前会長	中司哲雄
会長代行	笠井龍司
幹事長	清水拓也
事務局長	檜垣尚子
北海道私立中学高等学校協会	
会長	西岡憲廣
事務局長	澁谷恵補
事務局次長	代田透



3. 北海道総務部長との懇話会

山本倫彦総務部長との懇話会は、9月4日(水)に開催。

西岡会長の挨拶後、山崎副会長及び宮路副会長から、私学の現状や課題、私学予算の推移等を説明するとともに、今後の私学振興について意見交換を行った。

4. 自民党道連団体政策懇談会における要望

自民党道連が主催する、令和7年度の道の予算要望等の各団体との懇談会について、当協会も北海道私学団体連合会の一員として参加した。

10月8日(火)に開催され、当協会は西岡会長(北海道私学団体連合会議長)と山崎副会長が出席し、「令和7年度私学振興に関する要望書」に基づき、管理運営対策費補助金の充実、私立高等学校授業料軽減補助制度の拡充、入学一時金軽減補助制度の創設、公立高校の定員調整、公立高校の二次募集による私立高校合格者の辞退防止対策などについて要望した。

5. 北海道教育長との懇話会

中島北海道教育長との懇話会は、11月15日(金)に開催。

宮路副会長から、公立高校の間口調整不足や調整の必要性を説明し、また、公立高校の二次募集の出願資格については、道教委のアンケート調査の回答者の多くが公立高校や中学校の関係者であること、家庭の経済的事情から私学に進学できない生徒への配慮を理由にあげられていることに対する意見を述べるとともに、「入学手続を完了した私立高校合格者」は第二次募集資格者として認めないよう強く要望した。

6. 北海道議会での「私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書」の議決

国の予算時期に合わせて「私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書」を議決していただいております。令和6年度も第2回定例道議会の会期最終日の7月5日に議決していただいた。

道・道議会・国への要望活動

意見書は次のとおり。

(令和6年7月5日 原案可決)

意見案第7号

私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書

私学は、建学の精神と独自の教育理念の下、時代の変化や社会の要請に応じた特色ある教育を実践し、我が国の公教育の発展に大きな役割を果たしてきた。

しかしながら、我が国は、少子・高齢化社会の到来というこれまで経験したことのない厳しい時代を迎えており、私学においても、児童生徒の急激な減少と、長引く原油価格・物価高騰のための対応等により、経営環境はより一層厳しさを増している。

近年ますます国際化・高度情報化が進展する社会において、我が国が持続的に成長・発展を遂げていくためには、新しい時代が求める能力や知力を有するグローバル人材の育成が急務であり、私学は、こうした人材育成のために、これまで以上に自主性や多様性を発揮しながら、社会的役割を果たしていく必要がある。

国は、年収590万円未満世帯を対象とした私立高等学校等の授業料の実質無償化を実現するなど、公私間の格差是正に努めてきたところであるが、私学経営は依然として厳しい経営を余儀なくされており、その安定性・健全性を高めることが何よりも重要となっている。

よって、国においては、こうした私学が置かれている厳しい経営環境や公教育における社会的役割に加え、昨今の原油価格の上昇や円安の進行などによる物価高騰の影響にしっかりと目を向け、次に掲げる事項について支援の一層の充実強化を図るよう、強く要望する。

記

- 1 私立学校振興助成法の趣旨を踏まえた「経常的経費の2分の1補助」の実現
- 2 「私立高等学校授業料の実質無償化」の所得制限を撤廃するなど公私間の納付金負担格差の縮小是正とさらなる保護者の負担軽減施策の拡充
- 3 学校施設に係る耐震化に対する公立学校と同水準の支援、公私を区別しない冷房設備の整備促進
- 4 公私を区別しないICT環境の整備促進
- 5 都道府県が実施する私学助成制度に対する財源措置の一層の充実強化
- 6 原油価格の上昇などによる電気・ガス料金を含む物価高騰の影響に対するより一層の支援

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

令和 年 月 日

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
総務大臣
財務大臣
文部科学大臣

} 各通

北海道議会議長 富原 亮

定例総会・理事会・各部会の活動

定例総会

令和6年度の定例総会は、5月8日(水)札幌ガーデンパレスにおいて開催。

西岡会長の挨拶に続いて、来賓として北海道の濱坂真一副知事及び北海道議会の富原亮議長から挨拶をいただいた。

議長選出を諮り、北海学園札幌高等学校長の竹越広志氏が議長に選出され、審議が進められた。

1. 審議事項

議案第1号「令和5年度事業報告及び収支決算について(監査報告)」

○担当部会長及び事務局から説明し、原案のとおり議決。

議案第2号「令和6年度事業計画(案)及び予算(案)について」

○担当部会長及び事務局から説明。

会員から通信制を全日制の会費と同額の700円に上げるよう動議が出され、また、明上山副会長からは、改めて調査をし見解をまとめ、会員から出された動議に対する結論を別の機会に持ち越したいという再動議が出された。採決の結果、会員からの動議は否決、副会長からの動議は可決された。

そのほか、意見等はなく原案どおり議決。

議案第3号「役員を選出について」

○事務局から、従前どおり「役員選考委員会」による案を提案し議決。直ちに役員選考委員会を開催した結果、会長候補者として西岡憲廣西岡学園理事長・札幌山の手高等学校長、副会長候補者として山崎省一北海学園専務理事、宮路真人北海道文教大学附属高等学校長、駒井健一郎札幌光星中学校・高等学校長、監事候補者として川口淳 札幌龍谷高等学校長、古川敬康北星学園理事長が選出され、拍手をもって議決された。

2. 報告事項

報告第1号「理事長・校長等の異動等について」

報告第2号「令和6年度暫定予算について」

○事務局から説明し承認。すべての議事を終了し閉会した。

総会終了後の懇親会には、来賓として、北海道議会の富原亮議長、北海道議会教育振興議員連盟の中司哲雄顧問、田中芳憲会長、笠井龍司会長代行、吉田祐樹筆頭副会長、大越農子副会長、清水拓也幹事長、檜垣尚子事務局長、衆議院議員秘書等の皆様、北海道総務部の吉川政英行政局長、佐藤敏尚学事課長の皆様にご出席いただき、会員との懇親を深めていただいた。

定例総会・理事会・各部会の活動

理事会

理事会は、定例総会に向けて主に事業報告・収支決算及び事業計画・収支予算を協議するため3月と4月に、また、翌年度の予算要望方針等を協議する会議を8月に開催した。

令和5年度 第3回 令和6年3月25日(月)

1 協議事項

(1) 令和6年度定例総会議案について

- ① 令和5年度事業報告及び収支決算について
- ② 令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- ③ 役員の変更について
- ④ 理事長・校長等の異動等について
- ⑤ 令和6年度暫定予算(案)について

(2) 令和6年度私立中高振興対策費「特別会計」(案)について

(3) 学校法人日本航空学園(日本航空高等学校北海道)の入会希望について

2 報告事項

(1) 支部長の異動状況について

令和6年度 第1回 令和6年4月19日(金)

1 協議事項

(1) 令和5年度監査報告

(2) 令和6年度定例総会の配付資料、提出議案、進め方について

(3) 令和6年度定例総会懇親会の進め方について

令和6年度 第2回 令和6年8月23日(金)

1 説明

(1) 令和7年度国の文教施策及び予算に関する提案・要望について

(2) 私立高等学校管理運営対策費補助金の推移について

2 協議事項

(1) 令和7年度私学振興に関する要望書(案)について

(2) 北海道私立中学高等学校協会の今後の運営について

3 報告事項

(1) 公立高等学校配置計画案(令和7年度～9年度)について

(2) 令和6年度北海道地区初任者研修会について

(3) 令和6年度テーマ別研修会について

(4) 令和6年度理事長・理事・校長研修会(トップセミナー)について

(5) 2025年版私学ナビの発行について

(6) 修学支援リーフレットの発行について

(7) 令和6年度北海道私立学校展の開催について

定例総会・理事会・各部会の活動

令和6年度 第3回 令和7年3月25日(火)

1 協議事項

(1) 令和7年度定例総会議案について

令和6年度事業報告及び収支決算について、令和7年度事業計画(案)及び収支予算(案)について、理事長・校長等の異動等について、令和7年度暫定予算(案)について、令和7年度私立中高振興対策費「特別会計」(案)について

(2) 北海道私立中学高等学校協会「旅費規程」の一部改正について(案)

経営管理部会

部会長 山崎 省一

私学の未来を切り拓くために

少子化の進行が、従来の学校の在り方を揺るがし教育活動に深刻な影響を及ぼす時代が到来しています。安定した経営基盤の確立は私学にとって喫緊の課題ですが、ICT 環境の整備や冷房設備の設置などにより経費負担が増大し、さらにはエネルギー価格を含む物価高騰も重なって、私学経営は非常に厳しい局面を迎えていると言わざるを得ません。

それぞれに独自の教育理念をもつ私学の多様な教育力は、未来を切り拓く大きな力であり、公教育を支えるその役割はますます重要になっています。北海道の公教育を守っていくためにも、私学への公的助成の増額、公私の区別のない形での支援、公私間の負担格差の是正などを、さまざまな機会をとらえて関係各方面に粘り強く訴えていかなければなりません。私学間の連携を強化し、実効性ある活動を創りだしたいものです。

以下に令和6年度の活動報告をさせていただきます。皆様のご理解とご協力に感謝するとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。

1. 令和7年度私学振興予算要望の概要

経費の動向等を踏まえ、父母負担の軽減、教育条件の維持向上、経営安定等を図るため、管理運営費補助の充実(生徒一人当たり単価アップ、経常経費の2分の1補助の実現)、小規模校経営改善促進の継続、耐震化及び冷房施設整備等に対する支援の充実強化、入学一時金軽減補助制度の創設などを要望することとする。

<要望事項>

(1) 私立高等学校、中学校及び狭域通信制高等学校に対する管理運営費補助金の増額について (補助単価要望を3%アップ)

私立高等学校管理運営対策費補助金 111.5億円

私立中学校管理運営対策費補助金 9.9億円

私立狭域通信制高等学校管理運営対策費補助金 8.5千万円

(広域通信制は国による直接補助)

(2) 私立高等学校等に対する私学振興方策について

a. 私立学校振興助成法の趣旨を踏まえ、経常経費の2分の1補助実現

定例総会・理事会・各部会の活動

- b. 生徒一人当たり補助単価の引き上げと全国順位を下回らないこと
- c. 国による財源措置の一層の充実と、道の上乗せ額の縮減を行わないこと
- d. 中卒者数の減少の著しい地域の小規模校に対する特別措置
- e. 耐震化及び冷房施設整備等への支援の充実強化

現在、私立高等学校等施設の耐震化率では、北海道は77.1%、全国順位では46位となっています。公立高等学校等の耐震化率はほぼ100%となっており、遅れをとらないよう努めていかなければなりません。

また、近年、北海道においては記録的な猛暑が続いているが、道内の私立学校における冷房設備の整備は進んでいない状況にあることから、熱中症対策などの整備が求められています。

- f. ICT 環境整備促進について公立との格差是正
- g. 公私間の生徒納付金格差の縮小・是正、父母負担軽減策の充実
 - ・道の私立高校授業料軽減補助の一層の充実
 - ・公私間の納付金格差が非常に大きい私立の入学一時金の軽減補助制度の創設
 - ・私立中学校等における通う児童生徒への授業料減免支援制度の充実
 - ・奨学のための給付金制度の更なる充実
 - ・私立高等学校等の生徒の海外留学等経費への支援の充実
- h. 中卒者減少に対応した公立高校の適切な間口減
- i. 道立高校の第二次募集による私立高校入学手続き完了者の辞退防止対策

[以下参考]

- (3) 公益社団法人北海道私学振興基金協会が行っている私立高等学校に対する経営安定資金貸付制度の継続について

経営安定資金貸付金	9億円(令和6年度 9億円)
短期経営安定資金貸付金	2億5,000万円(令和6年度 2億5,000万円)

- (4) 公益社団法人北海道私学振興基金協会が行っている私立高等学校等の教育施設整備事業に対する貸付制度の継続について

貸付金	1億円(限度額)(令和6年度 1億円)
-----	---------------------

- (5) 公益社団法人北海道私学退職金社団が行っている教職員退職金資金給付事業に対する補助金について

補助定率	1,000分の36(令和6年度 1,000分の29)
補助金額	2億8,786万円(令和6年度予算額 2億3,304万円)

現在の負担金率は令和5年度から標準給与総額の1,000分の154の額を徴収しております。平成26年4月から公益社団法人に移行しましたが、退職金給付事業における要支給額に対する積立金の割合は、全国平均より下回っており、公益法人として今後更なる積立金の充実が求められます。道内の私立学校の教職員等の安定的な人材確保のため、地方交付税で財源措置が講じられている私立中・高等学校教職員等の標準給与総額の1,000分の36相当額の道補助金の復活を願うものであります。

- (6) 公益財団法人北海道高等学校奨学会が行っている奨学金等の貸付について

奨学金貸付月額	10,000円、15,000円、20,000円、25,000円(公立上限)、30,000円、35,000円(私立上限)
	(上記金額から希望額を選択)
償還期間	12年以内(据置1年)

定例総会・理事会・各部会の活動

高等学校奨学会は、向学心に富み、かつ経済的理由により就学困難な高校生等に対して奨学金等の貸付を行うなど、有用な人材を育成する事業を実施しております。令和5年度においても、奨学金の貸付や償還など、事業の運営にあたり支障が生じることのなきよう、格別なご高配をお願いする。

2. 令和6年度の主な動きとしては、監事による監査(4月12日)、経営管理部会(8月20日、3月6日)、私学振興全道大会(1月15日)を開催したほか、道議会教育振興議員連盟との懇話会(7月4日、12月11日)、道総務部長との懇話会(9月4日)、自民党道連団体政策懇談会(10月8日)、道教育長との懇話会(11月20日)に参加しました。また、令和7年度政府予算要望については、7月23日に道議会教育振興議員連盟のお力添えで、中村裕之衆議院議員を通して道議会教育振興議員連盟の田中芳憲会長、笠井龍司会長代行、清水拓也幹事長、檜垣尚子事務局長にご同行願ひ、財務省、文科省、道選出衆・参議院議員に対し陳情を行いました。

11月6日には全国私学振興大会に参加終了後、衆参議員会館に赴き、道選出国會議員に私学予算について陳情いたしました。

3. 当部会として、私立中高校等に対する助成、就学支援の充実、公私間の生徒納付金等格差是正のための施策充実、公立高校の間口調整等について、今後とも行政機関、関係機関、関係団体と連携をとりながら検討を重ねて参ります。
4. 教育振興部会、研修部会、他団体のご協力により私学の情報誌として「私学振興だより」30号を発刊することができました。担当部会といたしまして感謝申し上げます。今後とも、予算要望等私学振興に反映させて参りたいと思っておりますので、ご指導、ご協力のほどお願いいたします。

教育振興部会

部会長 宮路 真人

今こそ公私連携の時

これからわずか10年の間に北海道の中学校卒業者の数は約7,000人も減少します。出生数はなお減少を続けており、その後好転する見通し也没有せん。ここ何年か、公私協等の場において私たちは、公立高校の間口調整等を迫るだけではなく、公私連携による抜本的な改革を求め一歩踏み込んだ発言を続けてきました。それぞれが建学の理念を持ち特色ある教育を展開している私学は、教育の多様性を担保する観点からもなくてはならない存在です。公立高校も、都市部の特定の学校だけではなく北海道におけるすべての子どもたちに等しく良質な教育を提供するために、また地域の未来のセーフティーネットとして、必要欠くべからざる存在です。現実と大きく乖離した公立高校の配置計画を、従来の公私の関係性を、実現不可能としか思えない将来展望(机上の空論)を述べ立てて固守していくことは、公私ともに破綻への道であり、北海道教育の未来、ひいては北海道の未来に対する無責任、背信行為に他ならないと考えます。教育振興部会として、今後も粘り強く働きかけを行ってまいります。

定例総会・理事会・各部会の活動

以下に本年度の具体的な活動状況をご報告申し上げます。

第1回教育振興部会(4月18日)

(協議)

- (1) 公立高校配置計画(令和7年度～9年度)に係る意見要望について協議するとともに、部会終了後に開催される「公私協」において、道教委に対して要望を行うことを確認。
各学区の状況について説明聴取。
- (2) 公立高校等入試の2次募集の状況及び公立高校の2次募集による入学者辞退調べの結果について確認するとともに、高校配置計画に係る意見要望と併せ、2次募集出願資格の見直しについて道教委に要望することを確認。

(報告)

- (1) 令和6年度入試出張試験の実施結果について報告
- (2) 令和6年度私立高等学校一般入試に係る追試験の実施結果について報告
- (3) 道内高専の在籍状況(第1学年)について報告
- (4) 令和5年度地域別公立高等学校協議会開催結果について報告

第2回公私協議会(4月18日)

- ・公立高校配置計画(令和7年度～9年度)の策定に向けた考え方について、道教委から説明。
- ・明上山副会長から、各学区の具体的な要望を理解し、配置計画に適切に反映するよう要請するとともに、道立高校の2次募集の見直しを要望。
- ・各支部長から、それぞれの学区の実情や課題などについて発言し、中卒者の減少が見込まれる令和9年度の間口調整を確実に実行することを要望。
- ・その後、山崎部会長からこれまでの調整状況を踏まえて配置計画を策定すること、都市部における間口調整や再編を進めること、隣接学区における間口調整も確実に行うこと、高専への定員見直しの働きかけ、広域通信制高校への対応、道立高校の2次募集の見直しをすることなどを要請。
- ・明上山副会長から岸本高校配置・制度担当局長に意見要望書を手交。

第2回教育振興部会(7月8日)

(協議)

- (1) 6月に公表された令和6年度公立高校配置計画案(令和7年度～9年度)に係る修正意見要望について協議するとともに、部会終了後に開催される「公私協」において、道教委に対し修正意見要望を行うことを確認。
各学区の状況について説明聴取。
- (2) 高校配置計画に係る修正意見要望と併せ、2次募集出願資格の見直しについて道教委に要望することを確認。

(報告)

- (1) 令和7年度入試に係る出張試験実施計画の届出について報告
- (2) 市立札幌開成中等教育学校の入学者選考日程について報告

第3回公私協議会(7月8日)

- ・令和6年度公立高校配置計画案(令和7年度～9年度)等について道教委から説明。

定例総会・理事会・各部会の活動

- ・山崎副会長の挨拶の後、各支部長からそれぞれの学区の実情や課題などについて発言し、配置計画案の必要な見直しについて要請。
- ・その後、宮路部会長から、令和9年度の間口調整は、各支部長からの発言どおり私学側の要望との隔たりが大きいものとなっている。9年度に多くの学区で中卒者数が減少するとともに、入選後、定員の4割に近い欠員をかかえている学区もある中で、早急に見直しが必要であること、道立高校の2次募集に関しては、令和6年度の入選では募集人員数が公立高校の定員の16.3%にあたる4,832人となっているが、充足率は極めて低い状況となっており、制度的に無理があるとともに、公私間の信頼を損ねる問題であることから早急に検討願いたいこと、広域通信制高校については公私ともに影響を受けることから、共通の課題として協議を進めていきたいと発言。
- ・山崎副会長から修正意見要望書等を岸本高校配置・制度担当局長に手交。

第3回教育振興部会(12月13日)

(協議)

- (1) 令和7年度公立高校配置計画(令和8年度～10年度)に係る私学意見要望を確認。
各学区の状況について説明聴取。
- (2) 高校配置計画の意見要望と併せ道教委に2次募集出願資格の見直しについて要望するとともに、道教委で実施した「高等学校入学者選抜の改善に関するアンケート」に関して、意見を述べることを確認。
- (3) 道教委から提案のあった「地域別公立私立高等学校協議会の開催方法の見直し」に関し、意見を述べることを確認。

(報告)

- (1) 収容定員の変更に関する届出について報告

第1回公私協議会(12月13日)

- ・公立高校配置計画(令和7年度～9年度)の概要について道教委から説明。
- ・山崎副会長から、令和6年度の公立高校配置計画について、間口調整が不足している学区も多く残っており、多くの欠員が生じている公立高校の状況をみると私学側として満足できるものではないことを指摘するとともに、2次募集について早急な見直しを要望。
- ・各支部長から、令和7年度の配置計画の検討に向けて、各学区の現状や課題、間口調整要望などを発言。
- ・その後、宮路部会長から、4月の段階で私学側の要望に対する道教委の具体的な考え方を示すこと、令和6年度の配置計画については、10年度に中卒者数の大幅な減少が見込まれるとともに、多くの公立高校で欠員が生じておりこれまでの定員調整が適切に行われていないとの認識のもと策定すること、都市部における間口調整や再編を進めること、隣接学区における間口調整も確実に行うこと、高専への定員見直しの働きかけ、道立高校の2次募集の見直しを行うこと、広域通信制高校への対応などを要請。
- ・高等学校入学者選抜の改善に関するアンケートについて道教委から説明。
- ・宮路部会長からアンケートに関する問題点について発言。
- ・地域別公立私立高等学校協議会の開催方法の見直しについて道教委から説明。
- ・宮路部会長から見直し案に関する問題点について発言。
- ・山崎副会長から意見要望書等を岸本高校配置・制度担当局長に手交。

定例総会・理事会・各部会の活動

第4回教育振興部会(2月25日)

(協議)

- (1) 入試制度について検証し、令和8年度一般入試についても、A・B日程での実施を確認。
- (2) 令和8年度一般入試日程(案)及び入試日程決定に係る作業スケジュールを協議。
- (3) 令和6年度事業報告(案)及び令和7年度事業計画(案)について協議。

研修部会

部会長 駒井 健一郎

令和6年度の研修事業・研修部会の動き

今年度は、コロナによる影響から制約を受けていたすべての研修事業が、元通りの規模で再開されました。各事業の当番校のみなさまには多大なご理解ご協力を賜り、どの事業も成功裏に終えることができましたこと、心より感謝申し上げます。コロナ禍での空白の期間は、世の中の研修への考え方を大きく変えるきっかけにもなりました。オンライン上でのミーティングが広く受け入れられるようになり、研修の形式も対面である必要性が低くなっております。そういった背景において、当番校が対面でなければ得ることのできない内容を様々に工夫され、どの研修事業も参加者アンケートからは高い満足度が示されました。AIをはじめとする次世代型社会にどう対応していくべきかを多くの方々が注目する中、私学で学ぶことこそがより魅力ある環境であることをアピールしていくためにも、今後も有益な情報提供と研鑽の場を提供していくことができるよう研修部会での検討を重ねてまいります。

〈 事 業 〉

(1) 私立学校初任者研修 北海道地区研修会

(ね ら い) 新規採用教員に対して私立学校教員としての心構えを体得させるとともに実践的指導力の育成を図る。

(会 期) 令和6年8月8日(木)～9日(金)

(会 場) 札幌ガーデンパレス

(参 加) 39名

(担 当) 札幌支部(立命館慶祥中学校・高等学校、酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校、札幌日本大学中学校・高等学校、星槎国際高等学校)

(研修内容) 講義1 演題:私学の現状と課題

講師:一般財団法人日本私学教育研究所

初任者研修等事業検討委員

西山 啓一 氏

講義2 演題:求められる教師の姿～学習観の転換～

講師:学校法人西野学園 教育顧問

村田 尋如 氏

分科会 学習指導分科会、生徒指導分科会、学級経営分科会

定例総会・理事会・各部会の活動

(2) 第59回北海道私学教育テーマ別研修会

- (研究主題) コロナ後の時代を見据えた私学教育
(会 期) 令和6年9月19日(木)～20日(金)
(会 場) 札幌ガーデンパレス
(参 加) 69名
(担 当) 札幌支部

(3) 令和6年度 理事長・理事・校長研修会

- (テ ー マ) 人づくり、街づくり、未来づくり～未来を創る私学教育～
(会 期) 令和6年10月17日(木)～18日(金)
(会 場) 函館市 プレミアホテル-CABIN PRESIDENT-函館
(参 加) 39名
(担 当) 函館支部

(4) 令和6年度全国私学教育研究集会大分大会(参加)

- (会 期) 令和6年10月31日(木)～11月1日(金)
(会 場) 大分県 iichiko 総合文化センター iichiko グランシアタ、
ホテル日航大分オアシスタワー
(研究目標) 新しい時代の創造に向けた私学の挑戦～多様性と包括性の実現に向けて～

(5) 第62回北海道高等学校教育研究大会(後援)

- (研究主題) 北海道の新たな時代を拓く高等学校教育の創造
(会 期) 令和7年1月8日(水)～9日(木)
(会 場) カナモトホール(札幌市民ホール)
(全体講演) テーマ「データは大切、そしてデータを疑うことはもっと大切」
:総合知の視点から考える」
講 師 大阪大学名誉教授 小林 傳司 氏
(教科別集会) 札幌市内・小樽市内の14会場で開催

〈研修部会の主な動き〉

- ① 第1回研修部会 令和6年6月21日(金)
- ② 第2回研修部会 令和6年9月26日(木)
- ③ 私立学校初任者研修地区運営委員全国会議 令和6年10月4日(金)
- ④ 第3回研修部会 令和6年12月11日(水)
- ⑤ 第4回研修部会 令和7年2月21日(金)

支部の声

札幌支部

支部長 浅利 剛之

北海道の私立そして札幌支部を取り巻く環境は、ご存じの通り全国的に少子化が急激に進んでいる影響で年々厳しさを増しています。北海道の私学所在地における中卒者数は平成25年に41,253人だったのに対し、令和6年においては36,240人と10年余りで5,013名の減、率にして12.2%の減となっております。今後少子化はさらに加速度的に進んでいくことは明らかです。北海道は特に過疎地域が多く少子化は直近の死活問題です。一方で、数年前から開始された政府の私立への就学支援事業が追い風になり、北海道全体で平成25年に10,211名だった入学生が令和6年は9,832名で3.7%減と踏みとどまっています。札幌圏でも概ね維持しており、逆に公立は激減し続けています。これは就学支援金だけが要因ではなく、私学の教育内容とその努力が認知されている証拠だと考えています。そして現在の公立に対しての私立人気は長い北海道私学の歴史の中でも経験のない高い状況であると認識しています。ただし、今後少子化が益々加速する中で、このままいいはずがなく維持発展していくためには、札幌支部の学校でさえも一層の努力、工夫が必要であると感じています。当然のことながら教育内容の充実は各校の努力によりますが、私中高協会札幌支部としても、私立に追い風が吹いている今だからこそ、来たるべき更なる少子化の波に備えて手を打つ必要があると考えます。今こそ長らく公立学校の滑り止め、受け皿だった私立学校の立ち位置を根本的に変える絶好のチャンスです。今のうちに、私立は公立より良い教育をする、私立の方が良い学校である、私立の受け皿が公立であるという意識改革を道民に浸透させる動きを一丸となって進めるべきだと考えています。

入試業務のスムーズな運営と共に、上記のような益々深刻になる少子化への対応を主な目的として一年間活動してきましたのでその活動報告を以下にいたします。入試業務の運営に関しては、札幌支部のA、B日程校が完全移行したWEB出願のスムーズなやりとりが主なテーマになっています。例年通り年に3回の役員会、総会を含む年に3回の支部会で札幌市中学校進路指導協議会からの入選に関する要望を議論し、また札幌支部からの要望も議論する場として実施しました。

そして少子化への対応としての私立に対する道民の意識改革をねらって、現状の入試制度の改革を起爆剤に突破することを考えています。3年前に立ち上がった入試制度検討委員会で議論を重ね、まずは中学校側との今後の北海道を担う子どもたちの教育についての話し合い、そして私立をもっと知ってもらおう効果的な新しいイベントの立案、開催をすることで、支部会で了承を得ました。その第一弾として24年1月に中学校校長会と札幌支部役員で初めての意見交換会が開催され忌憚のない活発な意見交換がなされました。そして25年1月にも第2回目の意見交換会が開催されます。1回目は懇親から入りましたが、徐々に核心に入り前へ進める話し合いをしていく予定です。また、道教委との間口調整の検討をする公私協の会議が2回開催され、札幌支部代表として私が参加いたしました。現状はいわゆる道教委の結論ありきの形だけの公聴会になっています。札幌圏では、道教委は定員割れしている公立高校の間口を減らすことで、「結果適配」という都合の良い言葉で間口減していると説明していますが、人気のない学校の成り行き任せの間口減は計画性が全くなく、公立学校の将来のビジョンも見えなくその場しのぎの状況です。様々な特徴のある公立教育を維持して子どもたちの選択肢を残すために計画的な間口調整が必要であると訴えています。

急激な少子化で大変な時代を迎えてますが、多くの私立がある札幌支部から先陣を切って未来の私学教育のために積極的に動いていきたいと考えています。

支部の声

函館支部

支部長 扇柳 尚英

ピーク時に300,000人を超えていた函館市の人口は、近年、減少の一途をたどり、令和6年12月末には236,515人となっています。この小さな町に私学8校が所在していることに驚かれることもありますが、互いに連携しながらそれぞれの建学の精神の下、特色ある教育を展開しています。

連携の一例として、中学校の先生方を対象とした「私立高校合同進学説明会」が挙げられます。例年6月～7月に開催し、私立8校から教育活動、進路状況、入試、奨学金、資格や検定取得等々、様々な情報を提供しています。全体説明の後には、個別ブースでの相談も行っています。渡島檜山のほとんどの中学校が参加してくださり、私学・中学校双方にとって貴重な機会となっています。

また、中学生や保護者を対象とした「私立高校進学フェア」を毎年7月の海の日に開催しています。高校入試に向けた外部講師の講演、私学8校からの学校紹介、個別ブースでの面談を通じて、公立と私立の違いや私立高校の魅力、高校入試に向けて何をすべきか等を伝え、少しでも参加者の参考になればと考えています。

また、令和7年度入試では、私学8校すべてがWeb出願となりました。留意点や改善点、中学校や受験生・保護者からの要望等を共有し、中学校の負担を軽減すること、受験生・保護者に少しでも分かりやすくシステムを運用してもらうことを意識しています。

他にも、年5回、函館地区私立高等学校長会を開催し、私学8校共同で中学校側に情報提供をしたり、入試等に関して共通化できる点を整理したりしながら、少しでも中学校・生徒・保護者の力になれるよう活動しています。

これらの機会を通じて他の私学の特色を理解することは、自校の特色を改めて認識する良いきっかけになっていますし、様々な取り組みの工夫を学び合うことは、自校の魅力向上や魅力発信の取り組み改善、更に言えば、私学8校の魅力向上につながっています。

もちろん、互いにライバルであるという面もありますが、良いものは学び合い、高め合い、より良い教育活動を行って、公立との差別化を行い、「やっぱり私学だ」と評価されるように努めています。

そのような中、公立高校の配置や2次募集については、大きな課題が残っていると認識しています。

「積み残しは解消していく」、「地域の実情、私立高校の配置状況を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行う」との考え方が示されていたにもかかわらず、実際には平成30年度からの積み残しは解消されず、逆に令和7～9年度において更なる積み残しが生まれています。4間口相当の削減が必要な中で2間口の削減、しかも、令和8年度間口減の対象校は令和6年度に49名の欠員が出ている職業科、令和9年度募集停止の対象校は令和6年度に36名の欠員が出ている状況です。この2間口減をもって「私立高校の配置状況を考慮」したとは到底考えられません。令和10～13年度で5間口相当の減少が予想される中、これ以上の積み残しは受け入れ難く、函館市内で定員充足している公立高校、特に普通科での間口減を強く要望しています。

また、2次募集についても納得のいく説明はありません。受験機会の確保は追試験でなされていますし、経済的に困窮している家庭には就学支援金制度等も整備されています。「本当に学びたいところで……」という理由ならば、公立の手続き者にも受験資格を与えるべきであり、全く筋が通っていません。

そうした点をしっかり主張しつつ、今後も私学全体で教育の質を高め、共に公教育を支えるものとして公立とも手を携えつつ、要望すべき点はしっかり要望しながら、教育活動を展開してまいります。

支部の声

小樽支部 支部長 小路 修司

小樽支部の5校はそれぞれ独自の教育理念のもと特色ある教育を進めています。

小樽双葉高校では、全日制の他に、平成18年度から通信制の課程を設置しており、現在91名の生徒が学んでいます。今年新生として入学してきた生徒は8名で、その他、本校全日制から転籍した生徒6名、転編入してきた生徒22名となっています。ここ数年転入者が多くなってきました。不登校経験者、人間関係に不安な者、夢を追いかけ入学した生徒など、多様な生徒が在籍しています。土曜コースと集中コースの2コースがあり、自分の生活スタイルに合わせて選択することが出来ます。20日間前後のスクーリングの他に、遠足、映画鑑賞、ボウリング大会、全通合同学校祭などの特別活動もあります。進路では、法政大学、北海学園大学などの実績があります。

天狗山の麓にある小樽明峰高校は、生徒数約220名の普通科私立高校です。本校の掲げる【明峰で輝く】は、生徒たちが社会体験学習や進路学習など教員だけでなく地元の企業や施設の方々、大学・専門学校と深く接する特色教育を通して新しい発見や学びを探究し、生徒が自らの成長を実感できる教育を目標としたものです。そのため、不登校経験や学業不振、対人関係を築くのが苦手な生徒たちであっても、これまでの自分から一歩踏み出し、学校生活をやり直し、自分を取り戻そうと輝きます。小樽商科大学の学生が放課後学習に加わり本校生徒と関わってくれます。このように生徒たちと向き合って全力で学校生活サポートする教師集団と地域の方々の存在こそ本校一番の強みです。ホームページ【校長だより】やインスタグラムなど本校の発信情報をご視聴ください。

北星余市高校は、2024年に開校60周年を迎えることができました。開校からの歴史を振り返りながら、次の10年に向けて決意を新たにす機会となりました。記念講演には、赤平市の植松電機社長 植松努氏を迎え「思うは招く～夢があればなんでもできる」と題してお話をいただきました。在校生だけではなく、卒業生や地域の方にもお越しいただき、温かい雰囲気での式典となりました。新年度も体勢は変わりませんが、すでに受験希望者が願書を出してくれています。相談会等で面談を重ねていますが、今の学校生活を充実して送ることができていない生徒が大半となっています。新しい環境に飛び込み、充実した青年期を求める若者の居場所としてあり続けたいと考えています。

北海道芸術高校は、仁木町に本校があり、生徒は全国で1,537名の在籍者がいます。札幌・仙台・東京・横浜・名古屋の生徒が必ず本校に来て、面接指導を受けています。北海道の自然豊かな環境で学習をすることで普段経験のできない活動や、緑が多く落ち着いた雰囲気の中で学習することができています。不登校経験や集団行動が苦手などいろいろな事情を抱えた生徒が多く在籍していますが、この生徒が本校で集団生活(宿泊)をすることで生徒自身の成長につながっています。本校スクーリングでは希望者のみですが、仁木小学校での読み聞かせ活動など地域と協力をした活動も行っております。また、以前は収容定員の問題から転校生の受け入れを断っていましたが、今年度からは転校生の受け入れを再開し、途中から学びたい生徒の受け入れもできるようになりました。今後も全国通信制高等学校評価機構の基準を順守し適切な教育を進めてまいります。

「北海道経済を支えるフロンティアスピリットにあふれた人物を育成する」という建学の精神のもと開校124年目を迎える北照高校は地域を支える人材と世界で戦うアスリートを多数世に送り出しています。昨年は野球部の高橋幸佑君がドラフトにおいて中日ドラゴンズより指名を受け、本校として13人目のプロ野球選手が誕生しました。また、ワインプロジェクトを初めとする地域と連携した各種プロジェクトでは心がときめく、わくわくする学びを体験し、学び続ける生き方を身につけることができます。北照高校は将来の夢をより明確に描くことができる学校です。

支部の声

旭川支部

支部長 菅野 秀樹

今年度旭川支部は昨年度まで支部長でありました旭川藤星高等学校長山本周男先生がご勇退され、新たに工藤昌彦校長が就任され新年度がスタートいたしました。

校長就任2年目で支部活動の経験が浅い私が、支部活動をなんとか進められてこられたのも、胸襟秀麗な先輩校長先生方が懇切丁寧にアドバイス、ご意見をくださったからであります。あわせて前支部長であった山本周男先生は、事前に丁寧な引き継ぎ資料を作成していただき、直接アドバイスをいただきました。改めて皆様に深く感謝申し上げます。

さて、就学支援金の導入から複数年が経ちました。これは私立学校にとって追い風になっていることは間違いありません。また私たち私立学校は、その自主性と創意工夫を武器に、時代の要請に応じた教育を展開できるという強みを持っています。

現に旭川支部では、ICTを活用した先進的な学びや、グローバル化に対応した語学教育、地域社会と連携した実践的な総合的な探究活動など、多様な取り組みが進められています。これらは公立学校では難しい柔軟性のある対応を可能にし、生徒一人ひとりの個性や才能を引き出す教育を実現しています。

その結果、少しずつではありますが私立学校に対する意識が変わりつつあると感じております。私立は公立の受け皿、行く学校がないから私立に行くというネガティブな考えのもと私立学校を選択するのではなく、目的を持ち、私立学校の教育方針に賛同をし、学校選択をする生徒が増えてきたのです。

今後も社会の変化が加速する中で、子どもたちが将来直面する不確実性に備えるためには、単なる知識の習得にとどまらず、思考力や問題解決能力、コミュニケーション能力といった「生きる力」を育む教育が必要です。また、心の健康やいじめ問題など、生徒たちの安心・安全を確保する取り組みもますます重要性を増しています。こうした課題にも速やかに対応し、未来を担う人材を育成する場として、その使命を果たしていけるようチーム旭川支部として、道北に私学ありと誇れる教育活動に邁進していきたいと考えております。

【旭川支部主な活動】

1 旭川市内中学校長会及び上川管内中学校長会との合同懇談会

開催日：令和6年6月3日（月）

場 所：アートホテル旭川

出席者：市内各私立高等学校長（クラーク記念国際高校含む）、旭川市中学校長会役員、上川管内中学校長会役員

議 題：令和7年度入学者選抜検査日程について

就学支援金制度について

中学校側からの意見交換として中高連携の在り方について

2 支部会議の開催

(1) 第1回

開催日：令和6年4月17日（水）

場 所：アートホテル旭川

出席者：各学校長、副校長、教頭、事務長他

議 題：令和5年度事業報告収支決算報告、令和6年度事業計画、予算案

令和6年度入学者数確認

支部の声

令和7年度入試日程等について

公立高校配置計画に係る修正意見要望について

(2) 第2回

開催日：令和6年6月21日(金)

場 所：富良野緑峰高等学校

出席者：各学校長、稚内大谷高等学校教頭、事務長

議 題：令和6年度私学経営研修会報告、各校の募集行事日程確認

中高情報交換会議のまとめと就学支援金制度パンフレット配布確認

令和9年度公立高校配置計画案等に係る修正要望

(3) 第3回

開催日：令和6年12月10日(火)

場 所：旭川志峯高等学校 多目的室

出席者：各学校長、副校長、教頭他

議 題：令和7年度入学者選抜に係る入試業務日程等の確認(追試験含む)

令和7年度入学者選抜に係る志願者事前受付状況

胆振支部 支部長 竹本 将人

胆振支部は、胆振東学区の駒沢大学附属苫小牧高等学校、苫小牧中央高等学校、北海道栄高等学校、胆振西学区の海星学院高等学校、北海道大谷室蘭高等学校で構成されています。今年度より北海道栄高等学校の木村校長が就任されました。

公立高等学校配置計画においては、両学区ともに令和7年度から9年度にかけての公立分間口換算分が配置計画に反映されておらず、これまでの積み残し分も加わり、私学経営にとって深刻な状況が続いています。このような状況に至った要因として、公立分、私立分という表記での間口換算が示されてきたことが挙げられます。平成20年度以前では公私比率に基づく私学分の調整も求められていましたが、現在は私学所在学区においては、公立において調整を行うとなっています。しかし、私学分という表記はそのままであり、その分の調整がなされずに年度が進行することによって、積み残された間口がさらに増える要因となっていると思われます。

道教委から公私協において「定員調整目安について」という資料が示されたが、調整の開始基準年が平成29年となっており、それ以前のことが勘案されていないことや、現在の公立欠員状況も加えた現状把握がされているのかなど、疑問が残る資料となっていると言わざるを得ません。

広域通信制への中学卒業時での進学希望者も増加の傾向にあり、私学を取り巻く状況は一層厳しいものとなっています。また東学区においては定員調整に手が及ばない有朋高等学校連携の高等専修学校、さらには定員をオーバーしている国立の高等専門学校があり、学則定員を遵守するよう、これからも国への要望を続けていきたいと考えています。

今後も、各校の建学の精神と教育理念に基づいた特色ある教育活動を推進し、胆振支部の連携を密にして、さらなる教育の充実を図っていきたいと考えています。

支部の声

令和7年度のテーマ別研修会の担当支部として、現在検討を行なっているところです。開催日時は令和7年9月11日(木)・12日(金)、場所はグランドホテルニュー王子を予定しています。

【令和6年度 胆振支部主な活動(連絡協議会・事業)】

●第1回連絡協議会

日時 令和6年7月19日(金)14:30～16:00

場所 北海道大谷室蘭高等学校

- 議題 ① 第2回教育振興部会及び第3回北海道公立高等学校協議会について(報告)
② 地域別検討協議会について(情報交換)
③ これからの胆振支部の事業について
④ その他(各校情報交換)

●第2回連絡協議会

日時 令和6年9月27日(金) 14:30～16:00

場所 北海道大谷室蘭高等学校

- 議題 ① 第2回理事会について(報告)
② 胆振支部の事業について
③ 次年度のテーマ別研修会当番について
④ その他(各校情報交換)

●第3回連絡協議会

日時 令和6年12月23日(月)17:00～18:00

場所 グランドホテルニュー王子

- 議題 ① 12月13日開催 教育振興部会・公私協について(報告)
② 次年度のテーマ別研修会について
③ その他(各校情報交換)

●北海道大学苫小牧研究林 冬のエコツアー

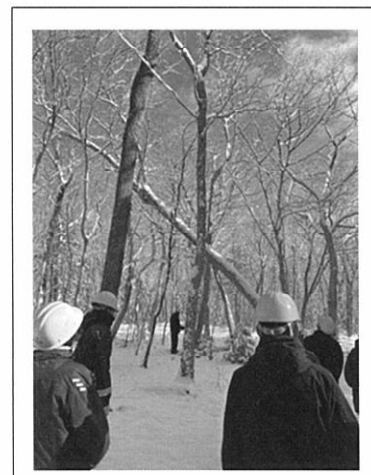
日時 令和6年12月23日(月)10:00～13:00

場所 北海道大学苫小牧研究林

(北方生物圏フィールド科学センター 苫小牧研究林)

〒053-0035 北海道苫小牧市字高丘

次年度の支部事業として各校の生徒会交流会を実施したいと考えている。そのための事前準備として、各校校長が体験プログラムに参加した。



支部の声

道東支部

支部長 嶋野 幸也

「学校へ行かない(行けない)」子どもの増加が止まらない。今年の10月末に発表された文部科学省の調べによると、昨年度、全国の小中学校で30日以上欠席した不登校の状態にある子どもは34万6,482人。前年度と比べて4万7,000人あまり、率にして15%多く、11年連続で増加して、過去最多となった。

小中学校時代に不登校を経験した子ども達は、高校に入っても同じような傾向を示すことが多い。ましてや色々な地域から生徒が集まってくるのだから、そうした子どもにとっての集団ストレスは半端ないものである。

子どもが不登校になる要因は多岐にわたるが、最近HSC(Highly Sensitive Child)という言葉を知った。直訳すると“ひといちばい敏感な子ども”。このHSCは心理的特性であり、外交性や協調性などと同じパーソナリティの一つと考えられ、病気や障がいではない。あくまで気質や性格の特性であって、いわゆる“繊細さん”である。日本の不登校の8~9割はHSCではないかという指摘もある。

人より強く不安を感じたり、周辺環境に敏感に反応したりするため、良くも悪くも刺激の多い学校での集団生活には合いにくい部分が少なからずあり、子どもにとっては生きづらさにつながってしまうようである。

小中学校のうちは欠席日数が多くても卒業の心配はいらないが、高校では残念ながらそうはいかない。進級段階から、成績と出席日数の両面で判定される。

大抵の学校では、欠席日数5割を上限として運用しているのではないかと思うが、不登校イコール通信制の学校へという昨今の風潮は、果たしてこういった子ども達のためになっているのだろうか？

親も「なんとか高校だけは・・・。」という思いから、簡単に転校手続をしてしまう。

なんとなく子どもだけが置き去りにされているように思えてならない。

本校では、こうした不登校の子ども達への最終手段として「校長預かり」を行っている。コミセンの図書室などをお借りしてのいわゆる「校外勉強」である。

学校には来られないが、コミセンには来ることができる、そんな子ども達を見ていると極めて普通の子であることにあらためて気づく。1対1だと黙々と勉強している。かえってこちらの方が学ぶことも多い。これまでに二人の子どもが教室に戻れるようになったから、まんざらでもないのかも知れない。

こんなやり方で単位認定していいのかどうか私にはわからないが、世の中が複雑化・多様化している今日あって、規定の枠の中ですべての物事を処理していくのは到底困難な時代である。

様々な意見があることは承知の上であるが、「入学を許可した」責任と、「教育は、人助けである。」を信念に、校長は今日もコミセンに出かけていくのである。

【令和6年度 道東支部の活動内容】

- 5月21日(火) 道東支部総会及び教育懇談会
- 6月13日(木) 帯広市中学校長会事務局・十勝小中校長会事務局との連絡協議会
- 10月11日(金) 私学3校合同入試説明会
- 12月18日(水) 道東支部教育懇談会
- 2月 7日(金) 地域別公私協(北見・釧路・十勝)

理事長・理事・校長研修会

函館支部長(函館大学附属柏稜高等学校長 扇柳尚英)

10月17日(木)・18日(金)に、理事長・理事・校長研修会を開催しました。

会場は、JR函館駅を出て直ぐ右側にある「プレミアホテル -CABIN PRESIDENT- 函館」でした。平成29年の函館開催時は「フォーポイントバイシェラトン函館」、それ以前は「ロワジュールホテル函館」、更に前は「函館ハーバービューホテル」という名称でした。ある参加者の方が「来る度に名前が変わっている」とおっしゃっていましたが、ホテルスタッフの方は変わらずお勤めの方が沢山いらっしゃいます。担当者は函館の私学OBで、物価高騰の折にもかかわらず従来通りの「特別価格」でサービスを提供してくれ、非常に助かりました。

人づくり、街づくり、未来づくり～未来を創る私学教育～というテーマでご案内したところ、北海道では「陸の孤島」と言われる函館での開催にもかかわらず、沢山の申し込みをいただき、ご来賓や講師の皆様、参加者、運営併せて50名を超える研修会となりました。

開会式には、北海道知事代理 北海道渡島総合振興局長 佐藤 秀行 様、北海道議会議長 富原 亮 様からご挨拶を頂戴しました。開会式後に記念写真を撮影し、研修に入りました。



【講演Ⅰ】では、函館市地域交流まちづくりセンター センター長 仙石 智義 様をお招きし、「今、若者に伝えたいこと～これまでのまちづくり活動を通じて～」というテーマでご講演いただきました。函館市青年センター・Gスクエアなどの公共施設センター長や企画制作会社を経て、2024年3月から現職を務め、様々な立場から函館のまちづくりに尽力していらっしゃいます。「函館のこと」「地域交流まちづくりセンター」「NoMaps はこだて」「はこだて国際科学祭」「サイエンス・サポート函館」「ジオ散歩」「函館古地図・古写真」「函館景観まちづくり協議会」等々、これまでの活動と、それらを通じて若者に伝えたいことについてお話いただきました。

【講話Ⅰ】では、一般財団法人 日本私学教育研究所 理事 所長 平方 邦行 様から、「『変革』の時代において私立学校の教育は未来を切り拓くことができるのか?」というテーマでご講話いただきました。函館にゆかりのある亀井勝一郎氏の言葉から始まり、「私立と公立の違い」「21世紀型教育」「プレ22世紀型教育」「創造性」「双方向型」「私学における協働主観」等々、これからの教育を創造していく上で非常に重要なヒントが無数にちりばめられた示唆に富んだ講話でした。

理事長・理事・校長研修会

函館支部長（函館大学付属柏稜高等学校長 扇柳尚英）

【講話Ⅱ】では、北海道総務部行政局学事課長 佐藤 敏尚 様から、「北海道私学の現状と課題」というテーマで、「私立学校の概要」「私立学校を取り巻く状況」「私学助成」などについて、多くの資料を用いながら丁寧にご説明いただきました。

1日目の研修後には親睦懇親会を開催しました。会場中に笑顔と楽しそうな声が溢れ、和やかな雰囲気であつという間に時間が過ぎて行きました。私もあちらこちらのテーブルに伺って、諸先輩方から様々なお話を伺うことができ大変勉強になりました。ありがとうございました。

2日目の【講演Ⅱ】では、函館短期大学 教授 長谷川 秀雄 様をお招きし、「私学に期待すること～中学校の視点から～」というテーマでご講演いただきました。道南の中学校を中心に要職を歴任され、3月まで函館市中学校長会の会長を務められていたこともあり、中学校現場からの生の声をお聞きすることができ、大変参考になりました。

研修会の最後は、北海道私立中学高等学校協会 山崎 省一 副会長から「令和7年度私学振興予算要望方針等」についてご報告いただきました。

運営にあたり、省エネルギー・SDGsの観点から、案内・お申し込みのデジタル化、資料のデータ配信、会場でのQRコード活用等を行いました。ご不便ご迷惑をお掛けした場面もありましたし、会場の問題や運営費の問題等々、今後検討が必要と思われる点多々ありました。

とは言え、お陰様を持ちまして、どうにか無事に研修会を終えることができました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

テーマ別研修会

大会事務局：北海学園札幌高等学校長 竹越広志

5年ぶりに開催される令和6年度第59回北海道私学教育テーマ別研修会は、9月19日（木）・20日（金）の両日、札幌ガーデンパレスにおいて『コロナ後の時代を見据えた私学教育』を全体研究課題として、道内各地から69名の教職員の参加を得て開催いたしました。

1日目は開会式と全体講演を行い、その後、全参加者とともに交流会を行いました。2日目は、3部会に分かれ、昼食を挟み午前の部と午後の部において熱心に研修が行われました。以下2日間の内容を簡単に報告いたします。

<全体講演>

演題：「コロナ禍の取り組みと未来への種まき」

講師：石屋製菓株式会社 代表取締役社長 石水 創 氏

石水氏からは、コロナ禍に見舞われ悪化した会社の業績を回復させるために、経営の基本理念に立ち返り、会社経営や事業展開を行い、オンライン事業や協業、地域貢献や社内研修などに取り組んだほか、組織改革としてキャリア選択の多様化や女性の登用、社外取締役の導入やサークル型組織への転換を進め、意思決定の迅速化を図ったことなどが話されました。学校教育の現場においても参考となる示唆に富んだ講演をしていただきました。

テーマ別研修会

大会事務局： 北海学園札幌高等学校長 竹越広志

<第1部会> 研究主題 コロナ後の時代を見据えた生徒対応

【部会講演①】

講演：「中学生の今 ～中学校でのスクールソーシャルワーカーの活動から見えたこと」

講師：北星学園大学附属高等学校 スクールソーシャルワーカー 内田 梓 氏

本来のサポートとは、本人が悩みや困難を乗り越える力を身に付けることを助けることであり、中学校で支援を受けた生徒が高校でも継続して支援を受けられるようにする必要があることを講演していただきました。

【部会講演②】

講演：「子どものもめごと解決テクニック」

講師：北海商科大学(教員養成課程)

公認心理師・臨床心理士・学会認定ピアメディエーター 益子 洋人 氏

スクールカウンセラー歴17年の経験を踏まえ、自己主張を通じて人間関係を深めるテクニックであるメディエーションを用いたもめごとの統合的解決手法を紹介していただきました。

【実践報告①】

報告者：北星学園大学附属高等学校 教頭 中川 昌輝 氏

テーマ：「スクールソーシャルワーカーを導入して ～SSWの意義とは」

<第2部会> 研究主題「コロナ後のこころと体の健康」

【部会講演①】

講演：「これからの子どもの健康」

講師：東海大学 国際学部 地域創造学科 准教授 塚本 未来 氏

東海大学 国際学部 地域創造学科 教授 山田 秀樹 氏

塚本氏からは、健康の定義や子供たちの生活習慣と健康状況を踏まえ、運動習慣の重要性や自律神経とストレス管理の重要性について講演をしていただきました。山田氏からは、ストレスマネジメントの第一歩としてのセルフケア、ヒューリスティックアプローチ、そして笑顔の重要性についての講演をしていただきました。

【部会講演②】研究主題に関するワークショップ

午前中の部会講演①を受けて、午後からは塚本・山田両氏によるワークショップを行っていただきました。

<第3部会> 研究主題 持続的な高等教育のありかた

【部会講演①】

講演：「大学での教育実践と高等教育に期待すること、最新医学の現状」

講師：北海道大学大学院 医学研究院 画像診断学教室 准教授 平田 健司 氏

日常の仕事や医学、AI医療に関する医学的な観点から、高校教育に通じる考え方について講演していただきました

【実践報告①】

報告者：北嶺中・高等学校 教頭 郷頭 竜也氏

テーマ：「コロナ後の時代を見据えた進路指導と本校独自の先進的寮教育」

【実践報告②】

報告者：北嶺中・高等学校 教頭 郷頭 竜也氏

テーマ：「将来を見据えた本物に触れる体験型プロジェクト」

私立高等学校周年行事記念式典

学校法人 遺愛学院 遺愛女子中学高等学校

式典名 遺愛学院 創基150周年記念式典

開催日 令和6年9月28日(土)

場所 遺愛学院遺愛アリーナ

出席人数 1,530名

特記事項 第1部 創基150周年記念礼拝及び式典

第2部 ご祝辞及び吹奏楽局記念演奏

北海道私立中高協会 西岡憲廣会長

在札幌米国総領事館 マシュー・ハフナー領事

北星学園 古川敬康理事長

遺愛同窓会 佐々木会長、遺愛PTA 荒木会長

終了後、遺愛学院本館(国の重要文化財)修復完成披露



学校法人 札幌光星学園 札幌光星中学校高等学校

式典名 学校法人札幌光星学園

創立90周年記念式典・慰霊ミサ

開催日 令和6年11月1日(金)

場所 札幌光星高等学校メインアリーナ

出席人数 1,500名

特記事項 [第1部] 慰霊ミサ

[第2部] 記念式典

[第3部] アトラクション

合唱部発表、生徒会による「光星90年の歩み」のプレゼン

周年記念事業の紹介、吹奏楽部と書道部の合同パフォーマンス

生徒会による学校生活や部活動紹介などを披露した



北海道社会貢献賞(私学教育功績者)



永年にわたり私学教育の向上に専心され、本道の私学振興に多大な貢献をされている方々に贈られる、令和6年度「北海道社会貢献賞(私学教育功績者)」の表彰式が、11月8日(金)札幌ガーデンパレスにおいて挙行された。

当協会からは、北海道文教大学附属高等学校校長の宮路真人様を受賞された。

宮路先生には、今後ますますお元気でご活躍されますことを祈念申し上げます。

《宮路真人様のご略歴・ご功績》

【ご略歴】

【略歴】

昭和 59 年 北海道大学文学部史学科卒業
昭和 60 年 札幌静修高等学校教諭
平成 20 年 札幌静修高等学校教頭
平成 29 年 札幌静修高等学校校長
令和 2 年 札幌静修学園理事長
令和 6 年 北海道文教大学附属高等学校校長

【ご功績】

札幌静修高等学校教諭、教頭を歴任後、平成 29 年には札幌静修高等学校校長、令和2年には学校法人札幌静修学園理事長に就任、現在は北海道文教大学附属高等学校校長として、永年にわたり高等学校教育の充実と発展に貢献している。

札幌静修高等学校在勤中は、同校が積極的に取り組んでいる国際理解教育及び国際交流の発展に尽力するとともに、部活動や地域の活動などを通じて文化・芸術活動の振興に寄与した。

また、北海道私立中学高等学校協会理事・札幌支部長、日本私立中学高等学校連合会理事を歴任するなど、本道のみならず、全国的な見地からも私学教育及び高等学校教育の振興発展に果たした功績は顕著である。

北海道私立中学高等学校保護者会連合会

令和6年度も、これまでと同様に「私学助成の拡充」と「父母負担の軽減」を目標に、全国的な組織である日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会や、全道的な組織である北海道私立中学高等学校協会と連携を密にしながら、積極的な要望活動を展開するとともに、保護者会の活性化を図るための活動に取り組んだ。主な活動は次のとおり。

1 北海道私立中学高等学校保護者会連合会定期総会及び講演会の開催



開催日 令和6年6月1日(土)

場 所 札幌ガーデンパレス

総会には、北海道私立中学高等学校協会の西岡会長を来賓としてお招きし、全道の保護者会の代表者など46名が出席した。令和5年度の事業報告と収支決算、令和6年度の事業計画と収支予算について審議が行われ承認された。

総会終了後の講演会では、一般社団法人JOY佐々木代表理事を講師としてお招きし、「生理用品無料配付プロジェクトについて」をテーマにご講演いただき、困りごとや生きづらさのある人・子どもたちへの支援・相談事業などの取組について理解を深めた。

2 日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会令和6年度総会・研修会への参加

開催日 令和6年7月18日(木)～19日(金)

場 所 静岡市 ホテルアソシア静岡

「今こそ私学から発信～教育が未来を拓く～21世紀(あす)を担う子どもたちのために～」をテーマに静岡市で開催され、各都道府県から約130名が参加した。北私学保連から正副会長など4名が出席し、全国の保護者会の方々と交流を深めた。



北海道私立中学高等学校保護者会連合会

3 北海道私立中学高等学校保護者会連合会理事会の開催

開催日 令和6年10月12日(土)

場 所 札幌ガーデンパレス

2回目の理事会を開催し、令和6年度の活動経過及び令和7年度の私学予算の要望、今後の活動予定について協議を行った。

4 令和6年度青少年育成研修会への参加

開催日 令和6年11月15日(金)

場 所 東京都 アルカディア市ヶ谷

「私立学校のめざすもの」、「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」を演題とする2部形式で開催され、北私学保連から会長・副会長の2名が参加した。

5 要望活動等

(1) 私学振興全国大会への参加

開催日 令和6年11月6日(水)

場 所 東京都 文京シビックホール

全国の私学関係者とともに、私学振興に係る補助金等の拡充強化など、国に対する要望を決議した。

大会終了後は、衆参両議院会館において北海道選出国會議員等に要望活動を実施した。

(2) 私学振興に関する懇話会全道大会への参加

開催日 令和7年1月15日(水)

場 所 札幌ガーデンパレス

参加者 50名

北海道私学団体連合会が主催する全道大会に、会員が参加し、私学がおかれている厳しい状況について情報を共有するとともに、私学教育の充実発展を図ることを確認した。

6 公立高等学校配置計画地域別検討協議会への参加

道教委が、道内の学区ごとに市町村や学校(公立・私学)の関係者などと、公立高等学校の配置について意見交換を行う、公立高等学校配置計画地域別検討協議会に出席した。

北海道私立高等学校事務長会

会長 木村英司（酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校事務長）

北海道私立高等学校事務長会は、昭和54年に「北海道私立高等学校事務連絡会」として発足して以来、私立高等学校事務における共通の課題を取り上げ、互いの研鑽に努めてまいりました。開催に当たっては、例年、道学事課をはじめとした関係諸団体の皆様を講師としてお招きし、非常に有意義な時間を積み重ねてきているところです。

このような中、今年度は旭川地区の学校の皆様方が中心となり準備と運営にご尽力いただき、次のとおり総会及び研修会を開催することが出来ました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け開催を見送ってきた懇親会も、5年ぶりに開催することができ、参加者同士、交流を深めることが出来ました。

このような中、今年度は旭川地区の学校の皆様方が中心となり準備と運営にご尽力いただき、次のとおり総会及び研修会を開催することが出来ました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け開催を見送ってきた懇親会も、5年ぶりに開催することができ、参加者同士、交流を深めることが出来ました。

《令和6年度開催内容》

- 1 開催日 令和6年10月31日(木)～11月1日(金)
- 2 開催場所 アートホテル旭川
- 3 参加校数 会員校50校中約40校が参加
- 4 総会審議事項
 - (1) 役員改選
 - (2) 令和5年度事業報告と決算報告
 - (3) 令和5年度監査報告
 - (4) 令和6年度事業計画(案)と予算(案)
- 5 研修会
 - (1) 「私立高校における働き方改革の現状と課題」
弁護士法人 千葉総合法律事務所 弁護士 赤岡 聖紀 様
 - (2) 「管理運営対策費補助金等について」
北海道総務部行政局学事課 主任 三木 麻莉子 様

北海道私学団体連合会

10団体で構成する北海道私学団体連合会は、令和6年6月12日に北海道私学団体連合会代表者・事務局長会議を開催し、令和6年度事業計画について協議を行った。

当該連合会の主な事業は、「私学振興に関する懇話会全道大会の開催」「自民党道連団体政策懇談会での次年度予算の要望活動」「各種政経セミナーへの参加」など。

また、令和7年1月6日には、道から総務部長、行政局長、学事課長、担当課長補佐の皆様を招いて新年互例会を開催し、懇親を深めた。

《北海道私学団体連合会構成団体》

議長 西岡 憲 廣

北海道私立中学高等学校協会、(公財)北海道高等学校奨学会、
(公社)北海道私学振興基金協会、(公社)北海道私学退職金社団、
(公社)北海道私立幼稚園協会、北海道私立幼稚園振興会、
(公社)北海道私立専修学校各種学校連合会、北海道学校法人立専修学校協会、
日本私立大学協会北海道支部、日本私立短期大学協会北海道支部
(事務局 北海道私立中学高等学校協会)

道教委 情報ボックス

公立高等学校配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））の概要

○ 策定の考え方

〈趣 旨〉	高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本とし、中卒者数の状況を踏まえ、学校・学科の配置や規模の適正化を図るため、令和7～9年度の計画を策定するとともに、令和10～13年度までの見通しを示す。
〈基本的考え方〉	指針に基づき、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情等を考慮しながら、定員調整や再編整備等を行うとともに、多様なタイプの高校づくりを推進。
〈計画変更〉	配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減、市町村立や私立高校の設置・廃止により生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合などは、計画を再検討。

1 令和7年度（2025年度）高校配置計画の変更について（計画案からの変更箇所は、下線のとおり）

種別	区分	学校名	計画変更の内容					
全 日 制	学級増	芦別 +1	留萌 +1 湧別 +1 清水 +1 別海 +1 中標津 +1					
		深川西 +1 倶知安 +1 静内 +1 士別翔雲 +1						
	再編統合・普通科新学科の設置	新設校（岩見沢市内） +6	○令和6年度（2024年度）の入学者選抜の結果、学級減を行った16校のうち、10校について、中卒者数の状況などを勘案し、それぞれ1学級増 ○再編統合に伴い新設する普通科新学科の名称を文理探究科とする <table border="1"> <tr> <th>再編統合前</th> <th>新設校</th> </tr> <tr> <td>岩見沢東 普通科(4学級)</td> <td>文理探究科(2学級)</td> </tr> <tr> <td>岩見沢西 普通科(2学級)</td> <td>普通科(4学級)</td> </tr> </table>	再編統合前	新設校	岩見沢東 普通科(4学級)	文理探究科(2学級)	岩見沢西 普通科(2学級)
再編統合前	新設校							
岩見沢東 普通科(4学級)	文理探究科(2学級)							
岩見沢西 普通科(2学級)	普通科(4学級)							
地域連携校の導入	森（協力校：函館工業）	○教育環境の維持向上を図るため、地域連携校を導入						

2 令和8年度（2026年度）高校配置計画の変更について（学校名の*は、市町村立高校）

種別	区分	学校名	計画変更の内容												
全 日 制	学級減・学科転換	函館水産 ▲1	○学級減に伴い、水産食品科及び品質管理流通科を食品創造科に学科転換 <table border="1"> <tr> <th>学科転換前</th> <th>学科転換後</th> </tr> <tr> <td>水産食品科(1学級)</td> <td rowspan="2">食品創造科(1学級)</td> </tr> <tr> <td>品質管理流通科(1学級)</td> </tr> </table>	学科転換前	学科転換後	水産食品科(1学級)	食品創造科(1学級)	品質管理流通科(1学級)							
学科転換前	学科転換後														
水産食品科(1学級)	食品創造科(1学級)														
品質管理流通科(1学級)															
定 時 制 ・ 全 日 制	募集停止・新設	【募集停止】 *ニセコ ▲1 【新設校】 *(総合学科) +2	○設置者（ニセコ町）の決定により、生徒の在籍状況や進路希望などを勘案し、ニセコ高校（町立・定時制・農業科）を募集停止し、新設校（町立・全日制・総合学科）を設置 ○新設校は総合学科2学級、1学級当たりの定員を35人とし、ニセコ高校の校舎を使用 <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>現行</th> <th>新設校</th> </tr> <tr> <td>課程</td> <td>定時制課程</td> <td>全日制課程</td> </tr> <tr> <td>学科</td> <td>農業科(緑地観光科)</td> <td>総合学科</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>1学級(定員40人)</td> <td>2学級(定員70人)</td> </tr> </table>	区分	現行	新設校	課程	定時制課程	全日制課程	学科	農業科(緑地観光科)	総合学科	学級数	1学級(定員40人)	2学級(定員70人)
区分	現行	新設校													
課程	定時制課程	全日制課程													
学科	農業科(緑地観光科)	総合学科													
学級数	1学級(定員40人)	2学級(定員70人)													

3 令和9年度（2027年度）の高校配置計画について（学校名の*は、市町村立高校）

種別	区分	学校名	主な計画の内容
全 日 制	学級減	北見商業 ▲1 釧路江南 ▲1	○通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、学級減
	募集停止	南茅部 ▲1	
	再編統合・単位制の導入	【募集停止】 *市立札幌藻岩 ▲6 *市立札幌北商業 ▲6 【新設校】 *(学科検討中) +8	○設置者（札幌市）の決定により、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、2校を再編し、新設校を設置 ○新設校は8学級、校舎は市立札幌藻岩高校の敷地に新設し、設置する学科は引き続き検討 ○生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、単位制を導入

4 地域連携校の再編整備の留保について

学校名	主な計画の内容
苫前商業	○道教委が所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備を留保

道学事課からのお知らせ

私立学校等管理運営対策費補助金について

私立学校の教育条件の維持向上及び修学上の経済的負担軽減を図るとともに、経営の健全性を高め、もって私立学校の教育の振興を図ることを目的として、学校法人へ補助しています。

厳しい道財政ではありますが、皆様方のご意見なども踏まえながら、定員遵守の徹底、教育の特色性の向上、保護者負担軽減といった観点により、効率的・効果的な配分に努めています。

1 管理運営対策費補助金

(1) 高等学校

	単価 (円)		総額 (千円)	
		(前年度比)		(前年度比)
R 7	378,782 円	5,539 円 (1.5%)	11,175,584 千円	▲67,241 千円
R 6	373,243 円	4,095 円 (1.1%)	11,242,825 千円	289,465 千円
R 5	369,148 円	3,992 円 (1.1%)	10,953,360 千円	▲161,989 千円

・過疎区域対策費 総額 235,825 千円 [前年度比 78,245 円 (49.7%)]

・小規模校経営改善促進費 総額 230,000 千円 [前年度同額]

(2) 中学校

	単価 (円)		総額 (千円)	
		(前年度比)		(前年度比)
R 7	356,565 円	6,508 円 (1.9%)	981,267 千円	▲31,798 千円
R 6	350,057 円	3,927 円 (1.1%)	1,013,065 千円	634 千円
R 5	346,130 円	3,883 円 (1.1%)	1,012,431 千円	▲56,065 千円

(3) 価格高騰対策

令和4年度(2022年度)から、国の交付金を活用し、原油価格・物価高騰対策に取り組んでいます。

○給食原材料費等支援事業

・保護者の負担軽減に向けた給食原材料費等の経費を支援

○物価高騰対策支援事業(光熱費)

・光熱費高騰の影響を受けている私立学校等に対する支援

(4) 私立学校施設の耐震化

ア 私立学校施設の耐震改修状況等実態調査について

本道の私立学校の耐震化率は、全国平均を下回っている状態にあり、できるだけはやく校舎等の耐震化を実施する必要があります。

○ 私立高等学校等の耐震改修状況等(令和5年4月1日現在)

	診断実施率	耐震化率	全国順位
北海道	84.7%	77.7%	46位
全国平均	90.9%	93.9%	

道学事課からのお知らせ

イ 耐震化補助制度について

【国】私立学校施設整備費補助金（診断、補強、改築）

【道】私立学校施設耐震診断事業費補助金（診断） ※1

【道】私立学校施設耐震化支援事業費補助金（補強、改築） ※1

	耐震診断	耐震補強	耐震改築
対象施設	幼稚園、小中高、専修学校		幼稚園、小中高
補助率	国 1/3 : 道 1/3 : 学校 1/3	国 1/3 : 道 1/6 : 学校 1/2 ※2	
補助上限額	75 万円	幼稚園 16,666 千円/棟、小中高 33,333 千円/棟	

※1 国庫補助の交付決定を受けた事業を補助対象とします。

※2 Is 値 0.3 未満の建物を耐震補強する場合の補助率は、国 1/2 : 道 1/6 : 学校 1/3 となります。

いじめ防止に向けた取組の徹底について

いじめは、どの学校、どのクラスにも、どの子どもにも起こりうるという認識の下、組織的に対応することが重要です。「いじめ防止対策推進法（以下、法という。）」を踏まえ、次の点に留意し、いじめ防止対策を徹底していく必要があります。

1 いじめの定義の理解と法に基づくいじめの積極的な認知

児童生徒が心身の苦痛を感じている場合は、全て「いじめ」に該当するという法の定義に基づき、学校としていじめを積極的に認知する。

2 早期からの組織的対応の徹底

教職員がささいな兆候や懸念、児童生徒の訴えを抱え込まずに、速やかに法により全ての学校に設置されている「学校におけるいじめの防止のための組織」に報告を行うことを徹底するとともに、初期段階での解決に向けて、迅速かつ組織的にいじめの状況を確認し、適切な役割分担により対応を行う。

3 未然防止

児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、信頼関係づくりに努めるとともに、児童生徒の不安や悩みに対して、スクールカウンセラー等を含む全ての教職員がいつでも相談できる体制を整備する。

4 保護者・地域・関係機関の協力を得る

学校のホームページへの掲載や、学校内への掲示などの方法により、日頃から、保護者等にいじめの定義や学校いじめ防止基本方針を分かりやすく伝える。

また、いじめが認知された場合は、被害・加害児童生徒の保護者に対して「学校いじめ対策組織」による解決に向けた対応方針を伝え、信頼関係の下に理解と協力を得られるよう努める。

※いじめ防止対策の取組にあたっては、令和6年12月26日付け文部科学省初等中等教育局児童生徒課事務連絡「いじめ防止対策の更なる強化等について」を参照の上、取組の強化等を図られますようお願いいたします。

私学情報の発信

【北海道私立学校展】

令和6年度は9月1日(日)に札幌ガーデンパレスで開催した。37回目となる今回は、道内の中学校9校と高等学校28校の合計37校が出展した。

札幌ガーデンパレス2階フロアを使って、各学校の相談ブースをはじめ、制服展示コーナーや、就学支援金等相談コーナー、パンフレットコーナーを開設した。

昨年に引き続き事前予約制の時間入れ替え制とし、1回あたり500名を4回入れ替えて実施した。

午前10時の開場と同時に、多くの児童・生徒や保護者の皆さんが来場し、関心のある学校のブースで、担当の先生の説明を熱心に聞き入っている姿が多く見られ、進路選択の参考としていた。



相談件数は、全体で昨年に比べ約1割増の1,749件であった。なかでも中学校の相談件数が増えており、昨年の1.5倍以上の281件であった。

日本政策金融公庫や北海道高等学校奨学会等による「就学支援金等相談コーナー」においては、保護者の皆さんが相談を行っていた。

この他、制服メーカー各社のご協力による制服展示コーナーにおいても、児童・生徒や保護者の皆さんが、気になる学校の制服を見比べたり、写真を撮影したりしていた。



会場入口近くに設けられたパンフレットコーナーは、1か所で多くの私学の資料を入手できると好評で、来場者の皆さんが、関心のある学校のパンフレットなどを持ち帰っていた。



来場された方々からのアンケートでは、「実際に話を聞くことによって学校そのものや学校内の各コース選択などの参考になったので、参加して良かった」、「一度に色々な高校の情報を知れるのはとても助かった」、「丁寧な対応で先生から直接話が聞ける貴重な機会となった」といった感想などが寄せられた。

今後も、道内の私立中学・高等学校が連携しながら様々な機会を通じて、私学の魅力や特徴などを発信していくこととしている。

私学情報の発信

【私学ナビ】

令和6年7月に、道内に所在する私立中学・高等学校のガイドブック「私学ナビ(2025年版)」を発行し、道内の小学校と中学校、関係機関などに配付した。

私学の特長や良さをアピールした「私学のいいとこ見つけよう!」コーナー、それぞれの学校の特色やアピールポイント、学科・コースなどの情報を盛り込んだ学校紹介コーナーのほか、入試日程や納付金内訳、オープンスクールの日程などを一覧表で掲載している。

夏休み期間中に、ご家庭で進路選択の検討材料としてご活用いただけるよう、夏休みが始まる7月下旬までに各学校にお届けした。

今後も編集内容を工夫し、見やすく分かりやすい誌面づくりを通じて、小中学生・保護者の皆さんに一層親しまれ、活用される「私学ナビ」の発行に取り組んでいく。

私学ナビをご希望される方は北海道私立中学高等学校協会事務局まで。



【ホームページ】

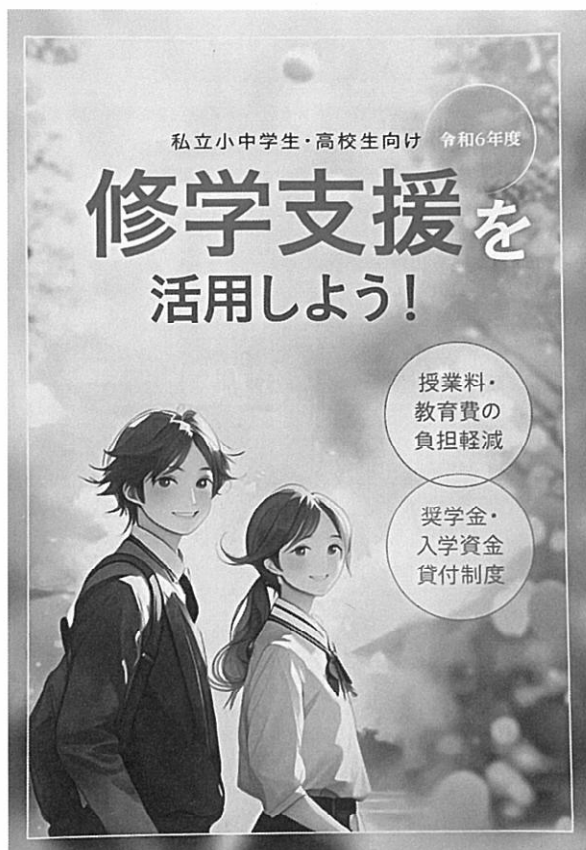
インターネットを活用した情報発信の充実を図り、子どもたちにも親しみやすく分かりやすい情報を提供するため、ホームページを開設し、学校紹介や入試関連情報、修学支援制度など私学の特色や魅力、関連情報を発信している。

アドレスは次のとおり。

URL:<https://www.doshigaku.jp/>

【修学支援リーフレット】

国の就学支援金制度や道の授業料軽減補助制度、奨学のための給付金制度、北海道高等学校奨学会の貸付制度等を紹介するリーフレットを18万部作成した。会員校が生徒募集資料として活用するとともに、全道の中学生と小学校6年生全員に対して配付し、制度の周知に努めた。



私学関係団体からのお知らせ

基金協会

1. 貸付事業

令和6年度貸付事業については、以下の見込みとなっています。

(千円)

資金名	予算額	貸付額		条件		
		校数	金額	期間	利率	限度額
施設整備資金	500,000	3	236,500	10年(2)	0.70% 1.30%	般資金 120,000 特別資金 50,000
環境整備資金	500,000	1	120,000	15年(2)	0.30%	120,000
経営安定資金	900,000	8	355,000	7年(2)	無利子	60,000
短期経営安定資金	250,000	6	70,000	年度内	無利子	15,000
私立幼稚園等 短期経営安定資金	100,000	1	3,000	年度内	無利子	5,000
合計	2,250,000	19	784,500	-	-	-

3. 助成事業

令和6年度助成事業については、以下の見込みとなっています。

(千円)

資金名	予算額	助成額		条件	
		校数	金額	期間	利子補給率・限度額
経営資金利子 補給金	3,000	7	1,617	幹旋期間	1.0%
耐震診断助成金	10,000	0	0	-	1校当たり 2,000 (経費の1/2以内)
防災・省資源等 助成金	30,000	9	14,200	-	1校当たり 2,000 (経費の1/2以内)
合計	43,000	16	15,817	-	-

2. 融資幹旋事業

令和6年度融資幹旋事業については、以下の見込みとなっています。

(千円)

資金名	予算額	幹旋額		条件	
		校数	金額	期間	利率
長期経営資金	1,200,000	3	109,000	5年以内 11年以内 (うち据置1年)	短期プライムレート+0.5% 短期プライムレート+0.7%
短期経営資金	900,000	4	130,000	1年以内	短期プライムレート
合計	2,100,000	7	239,000	-	-

4. 私学経営等研修会

令和6年度私学経営等研修会については、次のとおり3回実施しました。

区分	対象	開催日	参加者
1. 私学経営研修会	全法人	10/11	76名
2. 私学経営実務研修会			
(1) 給与等関係	全法人	11/8	79名
(2) 労務・会計等関係	23日-全法人 24日-高校 幼稚園	1/23・24	96名
合計	-	-	251名

退職金社団

退職金資金給付の状況について

今年度の退職金資金の給付額は、令和6年12月末現在で942,972,434円(退職者125人)です。

過去5年間の給付額を見ると、令和元年度108人829,510,095円、令和2年度131人1,006,075,149円、令和3年度120人1,113,961,598円、令和4年度108人1,162,724,118円、令和5年度123人1,132,338,147円となっています。当社団の退職金資金給付は、平成15年度に最高値の約29億円を給付しましたが、その後は減少傾向にあり、令和元年度からは、8億円から11億円強の間で推移しています。負担金率につきましては、令和5年度から、171%から154%に引き下げましたが、退職金事業の積立金は、今年度末においても順調に積み上がる見込みとなっています。

7大府県 令和5年度退職資金交付状況

区分	登録教職員数 (人)	退職者数 (人)	退職率 (%)	退職資金 交付者数 (人)	退職資金交付総額 (円)	退職者一人当り 平均交付額 (円)
北海道	1,774	128	7.2	123	1,132,338,147	9,206,001
神奈川	5,285	396	7.5	382	3,556,788,459	9,310,965
東京	29,198	2,925	10.0	2,858	12,796,316,114	4,477,367
愛知	3,854	263	6.8	263	2,543,806,524	9,672,268
京都	4,339	480	11.1	460	1,593,133,502	3,463,334
大阪	12,468	1,484	11.9	1,350	3,913,847,707	2,899,146
福岡	3,628	339	9.3	309	1,512,092,456	4,893,503

※ 東京、京都、大阪は幼稚園加入団体

私学関係団体からのお知らせ

奨学会

1. 令和6年度奨学生について

令和6年6月に定期募集を行うなど各学校のご協力を得て、新規に採用となった奨学生は、第1学年で489人、第2学年で50人、第3学年で31人、合計570人で、継続者と合わせた高等学校等に在学中の奨学生数は、1,548人となりました。なお、家計が急変し修学困難となった生徒に対しては、定期募集以外にも年間を通じて(緊急)採用をしています。(令和5年度採用者は4人)

令和6年度 奨学生の状況 (令和6年8月現在)

学 年	私 立	国・公立	合 計	(参考)貸付月額	
				右の額から希望額を選択。但し国・公立は25千円を限度。	10,000円 15,000円 20,000円 25,000円 30,000円 35,000円
第1学年	388人	101人	489人		
第2学年	429人	108人	537人		
第3学年	388人	134人	522人		
合計	1,205人	343人	1,548人		

2. 令和6年度入学資金貸付について

令和6年4月に道内私立高等学校(全日制)を対象に行った定期募集などにより計47人を採用しました。なお貸付額は20万円又は入学した高校の入学一時金のいずれか低い額となっています。

3. 奨学金及び入学資金貸付金の返還について

返還は、貸付終了後1年間据え置いて開始となります。返還状況の悪い方に対しては電話督促や訴訟等、種々の滞納対策を行っております。各学校におかれましても、奨学金及び入学資金貸付金の申込に当たっては返済について本人や父母と相談するとともに、卒業時には約束どおり遅れることなく返済することを指導する等、格別のご協力をお願いいたします。

私学事業団

マイナンバーカードと健康保険証の一体化

令和6年12月1日をもって加入者証・加入者被扶養者証(以下「加入者証等」という)の交付を廃止し、「資格確認書」又は「資格情報のお知らせ」のいずれかを交付しています。

1. 加入者証等の取り扱い

令和6年12月1日以降、交付しません。経過措置により、**すでに交付している加入者証等は令和7年12月1日まで医療機関等で健康保険証として使用できます。**ただし、令和7年12月1日より前に資格喪失した場合は、加入者証等を使用できるのは資格喪失日の前日までとなります。

2. 「資格確認書」

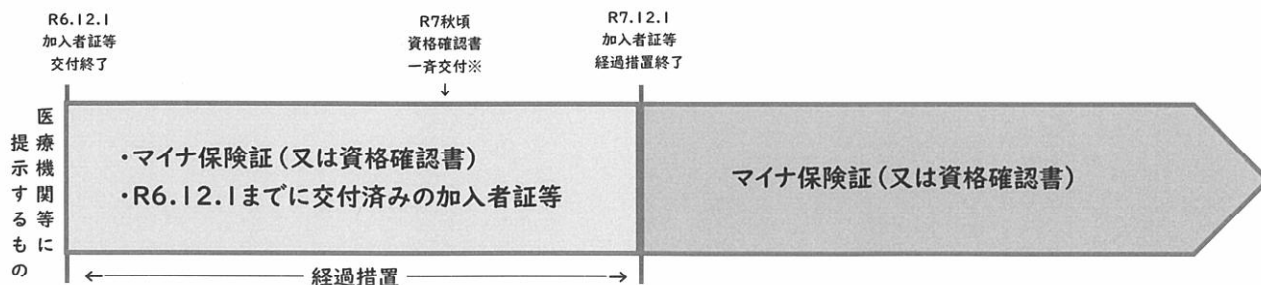
健康保険証登録済みのマイナンバーカード(以下「マイナ保険証」という)を持っていない人が医療機関等を受診する際にマイナ保険証の代わりに提示する証です。令和6年12月1日以降に資格取得等をした際に、交付を希望した人に送付します。加入者証等廃止前から加入者等である人は、加入者証等を使用できますので、交付申請をする必要はありません(上記1参照)。マイナ保険証未登録者には、経過措置が終了する令和7年秋頃に、資格確認書を私学事業団から自動的に学校を通して送付します(下図参照)。

3. 「資格情報のお知らせ」

私学共済制度の加入者等の資格情報をお知らせするものです。この証のみで医療機関等を受診することはできません。

※加入者等のマイナンバーカードの取得、健康保険証の利用登録及びマイナ保険証での受診に、より一層のご協力をお願いいたします。

【図:各証の交付時期及び医療機関等に提示するもの】



令和6年度・令和7年度の動き

【令和6年度】

4月 12日 定期監査
 4月 18日 第1回教育振興部会、第2回公私協
 4月 19日 第1回理事会、支部長会
 5月 8日 定例総会、懇親会
 5月 20日 北海道私立中学高等学校保護者会連合会
 役員会
 6月 1日 北海道私立中学高等学校保護者会連合会
 理事会、定期総会、講演会、懇親会
 6月 6~7日 令和6年度私学経営研修会
 6月 12日 私学団体連合会代表者・局長会議
 6月 17日 第1回私学展担当者会議(オンライン)
 6月 21日 第1回研修部会
 7月 4日 北海道議会教育振興議連との私学振興
 懇話会(第1回)
 7月 8日 第2回教育振興部会、第3回公私協
 7月 10日 全国生徒収容対策会議
 7月 12日 初任者研修運営会議
 7月 18~19日 日私学保連総会、研修会(静岡)
 7月 23日 令和7年度私立高等学校等政府予算に関
 する中央要請
 8月 8~9日 私立学校初任者研修北海道地区研修会
 8月 20日 第1回経営管理部会
 8月 23日 第2回理事会
 9月 1日 北海道私立学校展
 9月 4日 北海道総務部長との私学振興懇話会
 9月 19~20日 テーマ別研修会札幌大会
 9月 26日 第2回研修部会
 9月 28日 遺愛学園創基150周年記念式典
 10月 4日 私立学校初任者研修地区運営委員全国会議
 10月 8日 自民党道連団体政策懇談会
 10月 12日 北海道私立中学高等学校保護者会連合会
 第2回理事会
 10月 17~18日 理事長・理事・校長研修会(函館)
 10月 24日 第2回私学展担当者会議(オンライン)
 10月 31~11月 1日 全国私学教育研究集会大分大会
 11月 1日 札幌光星中学校・高等学校創立90周年
 記念式典
 11月 6日 私学振興全国大会
 11月 8日 北海道社会貢献賞表彰式
 11月 15日 日私学保連青少年育成研修会(東京)
 11月 15日 北海道教育長との私学振興懇話会
 12月 11日 第3回研修部会

12月 11日 北海道議会教育振興議連との私学振興
 懇話会(第2回)
 12月 13日 第3回教育振興部会、第1回公私協
 1月 6日 私学団体連合会新年互例会
 1月 15日 私学振興に関する懇話会全道大会
 1月 20日 地域別公私立高等学校協議会(オホーツク中)
 1月 21日 地域別公私立高等学校協議会(渡島)(オンライン)
 1月 28日 地域別公私立高等学校協議会(石狩)(オンライン)
 2月 3日 地域別公私立高等学校協議会(上川南)(オンライン)
 2月 3日 地域別公私立高等学校協議会(胆振東)
 2月 3日 地域別公私立高等学校協議会(胆振西)
 2月 5日 地域別公私立高等学校協議会(宗谷)
 2月 7日 地域別公私立高等学校協議会(釧路)
 2月 10日 地域別公私立高等学校協議会(十勝)(オンライン)
 2月 10日 道立高等学校推薦入試
 2月 12日 地域別公私立高等学校協議会(後志)(オンライン)
 2月 13~14日 私立高等学校一般入試(A日程)
 2月 18~19日 私立高等学校一般入試(B日程)
 2月 21日 第4回研修部会
 2月 25日 第4回教育振興部会
 3月 4日 道立高等学校一般入試
 3月 6日 第2回経営管理部会
 3月 17日 道立高等学校一般入試合格発表
 3月 25日 第3回理事会

【令和7年度 予定】

4月 11日 定期監査
 4月 17日 第1回教育振興部会、第2回公私協
 4月 18日 第1回理事会、支部長会
 5月 13日 常任理事会、定例総会、懇親会
 6月 5~6日 令和7年度私学経営研修会
 6月 7日 北海道私立中学高等学校保護者会連合会
 理事会、総会、講演会、懇親会
 8月 7~8日 私立学校初任者研修北海道地区研修会
 8月 8日 日私学保連総会、20周年記念式典
 9月 7日 北海道私立学校展
 9月 11~12日 テーマ別研修会(苫小牧)
 10月 2~3日 全国私学教育研究集会神奈川大会
 10月 16~17日 理事長・理事・校長研修会(釧路)
 11月 5日 私学振興全国大会
 11月 21日 日私学保連青少年育成研修会(京都)
 1月 14日 私学振興に関する懇話会全道大会

北海道私立中学高等学校協会役職員名簿(令和6年度)

会 長	西岡 憲廣	西岡学園理事長 札幌山の手高等学校校長
副 会 長 (教育振興部会・担当)	山崎 省一	北海学園専務理事
〃 (経営管理部会・担当)	宮路 真人	北海道文教大学附属高等学校校長
〃 (研修部会・担当)	駒井健一郎	札幌光星中学校・高等学校校長
常任理事	山崎 省一	北海学園専務理事
〃	宮路 真人	北海道文教大学附属高等学校校長
〃	駒井健一郎	札幌光星中学校・高等学校校長
理 事	池田 延己	函館大妻学園理事長
〃	苫米地 司	北海道科学大学理事長
〃	富居 徹雄	北海道立正学園理事長
〃 札幌支部長	浅利 剛之	札幌日本大学学園理事長
〃 函館支部長	扇柳 尚英	札幌日本大学中学校・高等学校校長
〃 小樽支部長	小路 修司	函館大学付属柏稜高等学校校長
〃 旭川支部長	菅野 秀樹	北照高等学校理事長 北照高等学校校長
〃 胆振支部長	竹本 将人	旭川志峯高等学校校長
〃 道東支部長	嶋野 幸也	北海道大谷室蘭高等学校校長
監 事	川口 淳	白樺学園高等学校校長
〃	古川 敬康	札幌龍谷学園高等学校校長
〃		北星学園理事長
経営管理部会 部会長	山崎 省一	北海学園専務理事
委 員	星川 定行	創成学園理事長
〃	池田 延己	函館大妻学園理事長
〃	福島 基輝	遺愛学院理事長 遺愛女子中学・高等学校校長
〃	苫米地 司	北海道科学大学理事長
〃	宮川 英隆	北海道龍谷学園理事長
〃	富居 徹雄	北海道立正学園理事長
教育振興部会 部会長	宮路 真人	北海道文教大学附属高等学校校長
委 員	浅利 剛之	札幌日本大学学園理事長
〃	扇柳 尚英	札幌日本大学中学校・高等学校校長
〃	小路 修司	函館大学付属柏稜高等学校校長
〃	菅野 秀樹	北照高等学校理事長 北照高等学校校長
〃	竹本 将人	旭川志峯高等学校校長
〃	嶋野 幸也	北海道大谷室蘭高等学校校長
〃		白樺学園高等学校校長
研修部会 部会長	駒井健一郎	札幌光星中学校・高等学校校長
委 員	今城 慰作	北星学園大学附属高等学校校長
〃	秋山 秀司	北海高等学校校長
〃	橋本 達也	北海道科学大学高等学校校長
〃	石川 直美	藤女子中学校・高等学校校長
〃	赤司 展子	札幌新陽高等学校校長
〃	八木 和彦	札幌第一高等学校校長
事務局 長	澁谷 恵補	
事務局次長	代田 透	
事務局員	佐藤 直美	
〃	稲葉 裕子	

お知らせ

令和7年度定例総会は 5月13日(火) に開催する予定です

発行 **北海道私立中学高等学校協会**

〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目札幌ガーデンパレス5階

TEL 011-241-6651 FAX 011-241-6651

URL <https://www.doshigaku.jp/> MAIL jimukyoku01@doshigaku.jp

令和7年3月第31号発行